MITSUBISHI

sRGB

三菱DLP™プロジェクター

形名
LVP-XD2000
LVP-XD1000

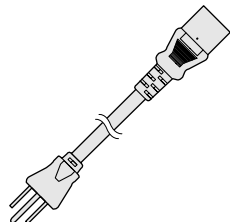
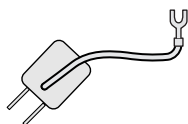
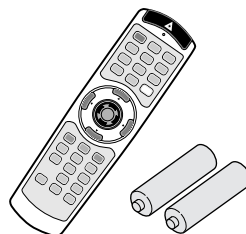
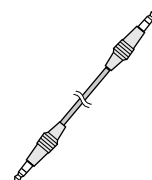
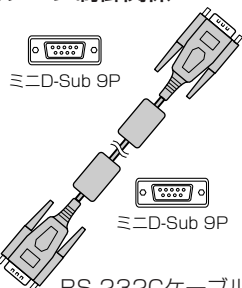
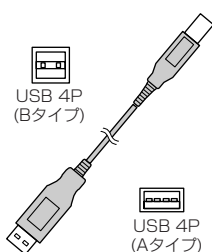
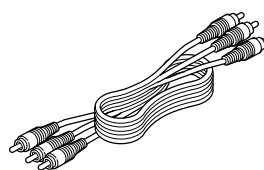
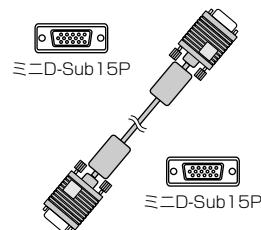
取扱説明書

はじめに
映像を見る
設定・調整する
その他

PJLink®

このたびは三菱DLP™プロジェクターをお買上げいただきありがとうございました。
ご使用の前に、正しく安全にお使いいただくため、この取扱説明書を必ずお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要なときお読みください。
保証書は必ず「お買上げ日・販売店名」などの記入をお確かめの上、お買上げの販売店からお受け取りください。
製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際は、製品本体と保証書の製造番号をお確かめください。

付属品を確認する・リモコンに乾電池を入れる

付属品を確認する（このプロジェクターには次の付属品があります。そろっているかどうか確認してください。）

■ その他

- レンズキャップ(本体に付属)
- 取扱説明書
- クイックスタートアップ
- 保証書
- CD-ROM
- ターミナルカバー
- 三菱DIAMOND VIEW CLUBご案内

● 付属の電源コード、変換アダプタは、本製品専用です。決して他の製品には使用しないでください。

リモコンに乾電池を入れる

1 リモコン裏面のフタをはずす

2 乾電池の(＋)、(－)をよく確かめて、(－)側から正しく入れる

● 乾電池を（＋）側から入れると、（－）側へ入れるときにコイルバネ端子が乾電池の側面に当たり、入れにくくなります。このような状態で無理に入れると乾電池の外装ラベルが破れ、ショートして発熱する恐れがあります。

3 裏面のフタを付ける

● 乾電池は、単三乾電池（R6）を2本お使いください。
● リモコンを使用できる距離が短くなってきたら、2本とも新しい乾電池に交換してください。

⚠注意

●電池は、7ページに記載している「乾電池の取り扱いについて」をよく読んで、正しくお使いください。使用を誤ると液もれや発熱、破裂により、火災やけが、周囲の汚損の原因となることがあります（乾電池に表示されている注意事項もお読みください）。
●このプロジェクターはプラグ接続機器です。機器の近くにコンセントがあり、かつそのコンセントには、容易にアクセスできなければなりません。
●本機には付属の電源コードをご使用ください。付属以外の電源コードを使用すると、ラジオやテレビの放送電波障害の原因となることがあります。
●J55022 クラス B装置の規制範囲内に干渉を抑えるため、付属のRGB信号ケーブルとRS-232Cケーブルをご使用ください。
●本機は必ず接地してください。

もくじ

商標・著作権について

- アスペクト比の切り換えについて
  - 本機はアスペクト比切り換え機能（21ページ）を備えていますが、入力信号と異なるアスペクト比を選択されますと、周辺画像が一部見えなくなったり、変形して見えます。制作者の意図を尊重したオリジナルな映像は、元の入力信号と同じアスペクト比でご覧ください。
  - 本機を営利目的、または公衆に視聴させることを目的として、店内外、ホテルなどにおいて、アスペクト比切り換えを利用して画面の圧縮や引き伸ばしなどを行いますと、著作権法上で保護されている著作権の権利を侵害する恐れがありますので、ご注意願います。

安全のために必ずお守りください

■ 誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性があるもの		誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋･家財などの損害に結びつくもの

■図記号の意味は次のとおりです。

絶対に行わないでください	絶対に分解･修理はしないでください	絶対に触れないでください
絶対に水にぬらさないでください	絶対にぬれた手で触れないでください	絶対に水場では使用しないでください
手をはさまないよう、注意してください	必ず指示に従い、行ってください	必ず電源プラグをコンセントから抜いてください

警告

故障したまま使用しない

万一異常が発生したときは、電源プラグをすぐ抜く*!!*

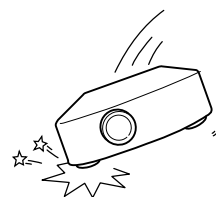
異常のまま使用すると、火災や感電の原因となります。すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、三菱電機テクニカルサポートセンターに修理をご依頼ください。

プラグを抜く

煙が出ている、変なにおいがするなど、異常なときは、電源プラグをすぐ抜く*!!*

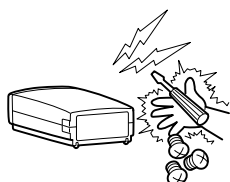
プラグを抜く

異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。すぐに電源を切ったあと電源プラグをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認してから、三菱電機テクニカルサポートセンターに修理をご依頼ください。

落としたり、キャビネットを破損した場合は使わない

使用禁止

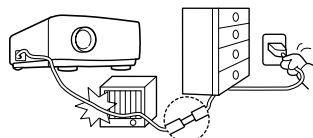
火災や感電の原因となります。

次のようなことはしない

キャビネットをはずしたり、改造しない

分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、さわると感電の原因となります。また、改造すると、ショートや発熱により、火災や感電の原因となります。内部の点検･調整･修理は、三菱電機テクニカルサポートセンターにご依頼ください。

電源コードを傷つけない

- 重いものをのせない
- 引っ張らない
- ねじらない
- 無理に曲げない
- 加熱しない
- 加工しない
- じゅうたんなどの下にひかない

禁止

コードに傷がつくと、火災や感電、故障の原因となります。電源コードの芯線が露出したり断線するなど、コードが傷んだときは、すぐに三菱電機テクニカルサポートセンターに修理をご依頼ください。

内部に異物を入れない

禁止

金属類や燃えやすいものなどが入ると火災や感電の原因となります。

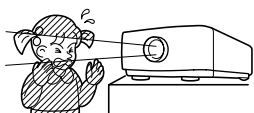
花びんやコップ、植木鉢、小さな金属物などを上に置かない

禁止

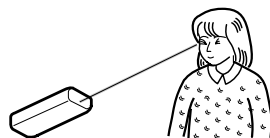
内部に水や異物が入ると、火災や感電の原因となります。

⚠警告

次のようなことはしない(つづき)

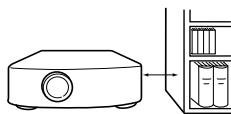
レンズをのぞかない

禁止

光源ランプの点灯中は、レンズをのぞかないでください。強い光によって視力障害などのけがの原因となります。

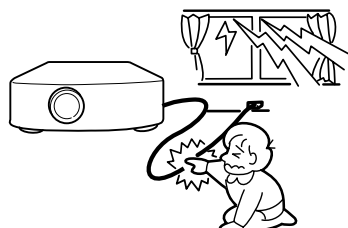
レーザー光をのぞかない

禁止

レーザー光が目に入ると失明の原因となることがあります。

吸気口、排気口をふさがない

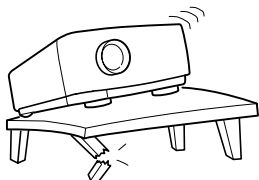
- 風通しの悪い狭い場所に置かない (壁から50cm以上離す)
- じゅうたんや布団の上に置かない
- テーブルクロスなどをかけない
- 排気口付近に燃えやすい物を置かない

禁止

吸気口や排気口をふさぐと、内部に熱がこもり、製品の性能劣化や火災の原因となることがあります。

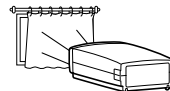
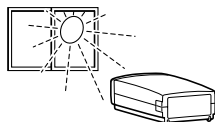
雷が鳴り出したら電源プラグには触れない

接触禁止

感電の原因となります。

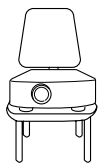
次のような場所に置かない

不安定な場所には置かない

禁止

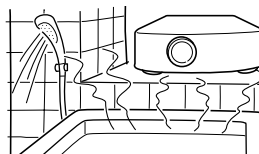
(特に上下逆さまに置いた状態で)ぐらついた台の上や、傾いた所などに置くと、落ちたり倒れたりして、けがや故障の原因となります。

直射日光の当たる場所に置かない
レンズを太陽に向けたり、レンズの直前に物を置かない

禁止

火災や故障の原因となります。

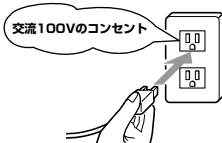
ソファー、椅子などの上に置かない

禁止

吸気口をふさぐと、内部に熱がこもり、製品の性能劣化や火災の原因となることがあります。

風呂場では使わない

水場での使用禁止

火災や感電の原因となります。

その他

正しい電源電圧で使う

交流100V

交流100V以外の電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。

使用した直後、光源ランプの交換はしない

使用した直後、光源ランプは高温になっていますので、交換作業はしないでください。さわるとやけどの原因となります。

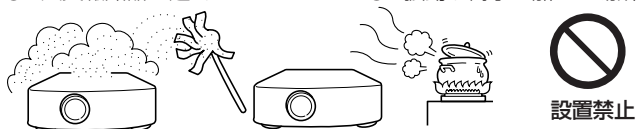
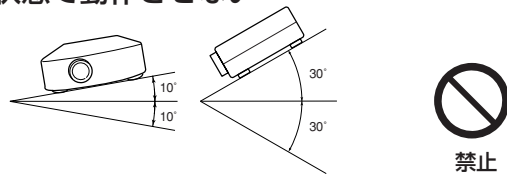
禁止

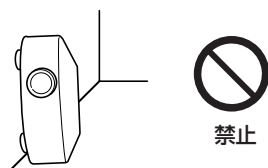
安全のために必ずお守りください(つづき)

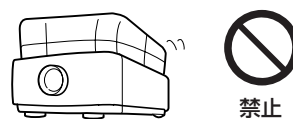
⚠注意

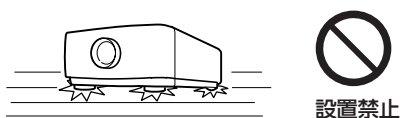
次のような場所には置かない

設置時は、次のような場所には置かない

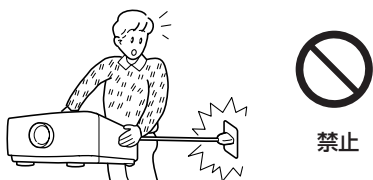
- 押し入れや本棚など、風通しの悪い場所
- 閉めきった自動車内など、高温になるところ
- 排気口にエアコンなどの風が直接当たるような場所
- 熱器具の近く
- 直射日光の当たる場所
- 火災報知器の近く
- 湿気やほこりの多い場所
- 油煙や湯気が当たる場所
- 振動や衝撃が加わる場所

傾けた状態で動作させない

傾けた状態で動作させるとランプの故障や破裂の原因となります。左右方向に対して±10°、前後方向に対して±30°を越えて傾けた状態で動作させないでください。また、傾けた状態で設置する場合、すべり落ちることがあるので、台などに固定して使用してください。

立てた状態で置かない

倒れて、けがや故障の原因となります。

重いものを置かない、踏み台にしない

本体がこわれることがあります。また、バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

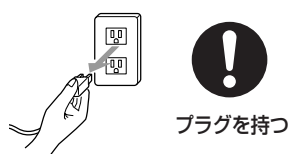
ワックスのかかった床に直接置かない

床上のワックス、洗剤、溶剤により、床材とプロジェクター底面脚部分の密着性が上がり、床材のはがれ、着色の原因になります。

電源コード・プラグについて

接続したまま移動させない

電源コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。電源コードや接続コードをはずしたことを確認してから移動させてください。

電源プラグのほこりなどは定期的に取り、差し込みの具合を点検する

ほこりなどがついたり、コンセントへの差し込みが不完全な場合は、火災や感電の原因となることがあります。
1年に1回はプラグとコンセントの定期的な清掃をし、最後までしっかり差し込まれているか点検してください。

電源プラグを持って抜く

電源コードを引っ張ると、コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

⚠注意

乾電池の取り扱いについて

新しい乾電池と古い乾電池や、種類の違う乾電池を混ぜて使用しない。

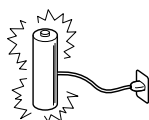
禁止

分解したり、ショートさせたり、火の中に投入しない。

禁止

プラス（+）とマイナス（−）の向きを正しく入れる。

正しく入れる

乾電池を充電しない。
充電式の電池は使用しない。

禁止

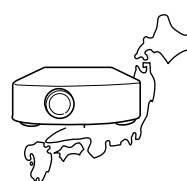
- 乾電池は、(−)側から入れてください。
  乾電池を(+)側から入れると、(−)側へ入れるときにコイルバネ端子が乾電池の側面に当たり、入れにくくなります。このような状態で無理に入れると乾電池の外装ラベルが破れて、ショートして発熱する恐れがあります。
- 使いきった乾電池は、すぐに取り出してください。
- 乾電池の溶液が皮膚や衣服に付着したときは、きれいな水で洗い流してください。また、眼に入ったときは、きれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- 使用済みの乾電池は、地域の破棄ルールに従って破棄してください。
- 乾電池は乳幼児の手の届かない所に置いてください。万一、飲み込んだりした場合はすぐに医師に相談してください。

その他

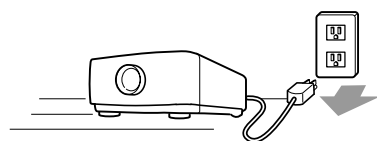
1年に一度は内部の掃除を依頼する

内部掃除

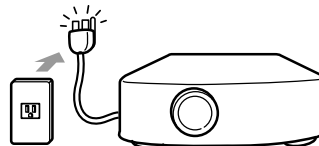
三菱電機テクニカルサポートセンターにご依頼ください。ほこり、油煙、けむり等により内部に汚れが付着したまま長い間掃除をしないと、火災や故障および、光学部品の汚れによる輝度劣化の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うのが効果的です。内部掃除費用については、三菱電機テクニカルサポートセンターにご相談ください。

このDLP™プロジェクターは日本国内専用です

日本専用

電源電圧の異なる海外では使用できません。また、アフターサービスもできません。
This DLP™ projector is designed for use in Japan only and can not be used in any other country. No servicing is available outside of Japan.

ご使用が終わったときは、電源プラグをコンセントから抜いておく

プラグを抜く

電源ボタンで電源を切り、光源ランプを消灯したスタンバイ（待機状態）にします。**約2分間**待ったあと、主電源スイッチを切り、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜いて行う

プラグを抜く

安全のため、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

排気口、底板は熱くなりますので触れないこと

やけどや他の機器への損害を与える原因となりますので、さわったり、排気口の近くに他の機器を設置したりしないでください。また、熱に弱い机の上などに置かないでください。

接触禁止

海抜1500m以上での使用は避ける

海抜1500m以上での使用は、製品の寿命に影響するおそれがあります。

注意

製品使用中は排気口をのぞき込まない

排気口から温風、ゴミなどが吹き出すため、目をいためることがあります。

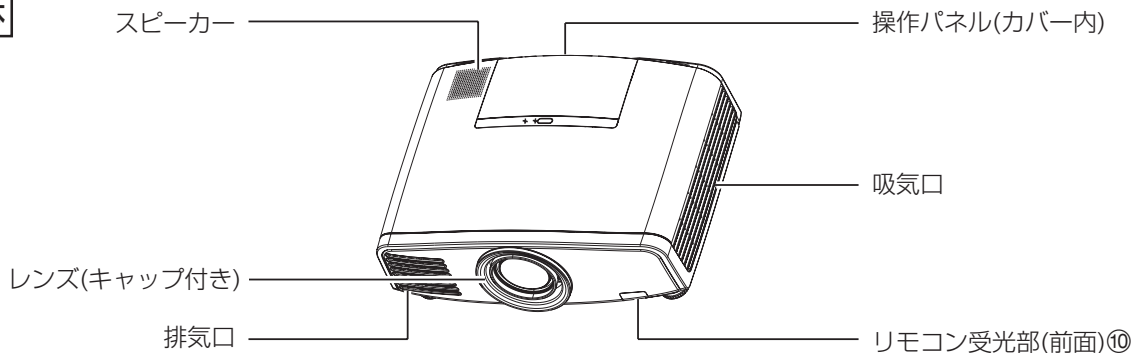
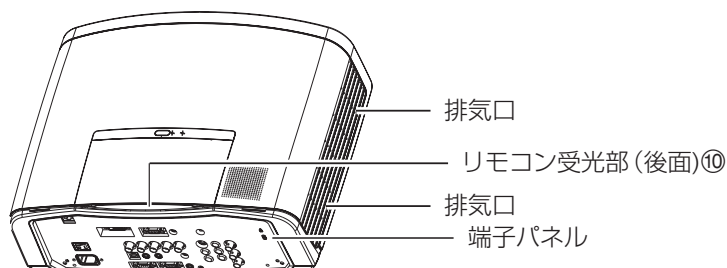
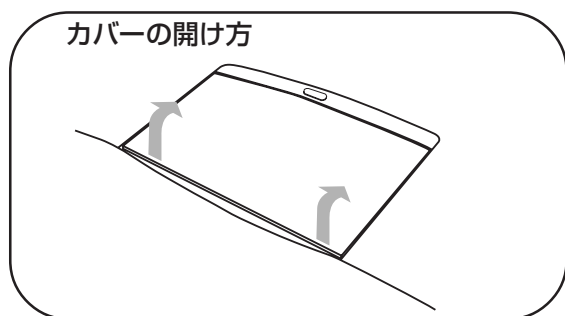
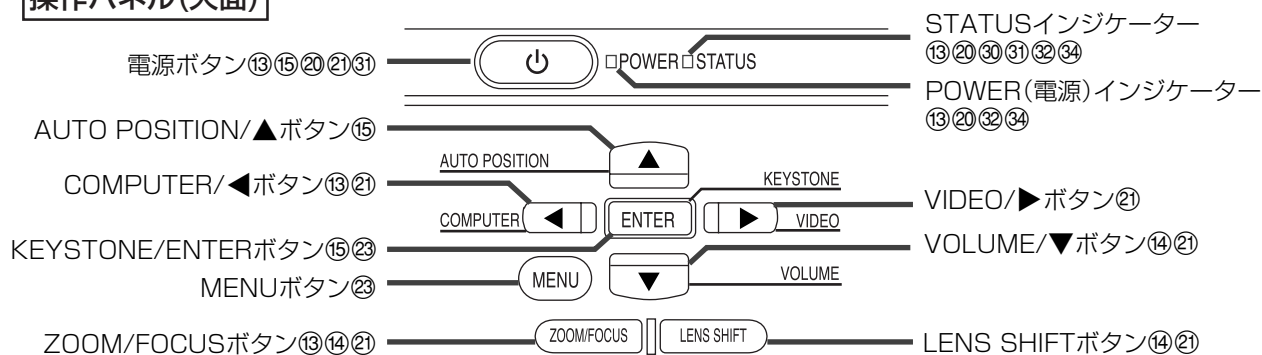
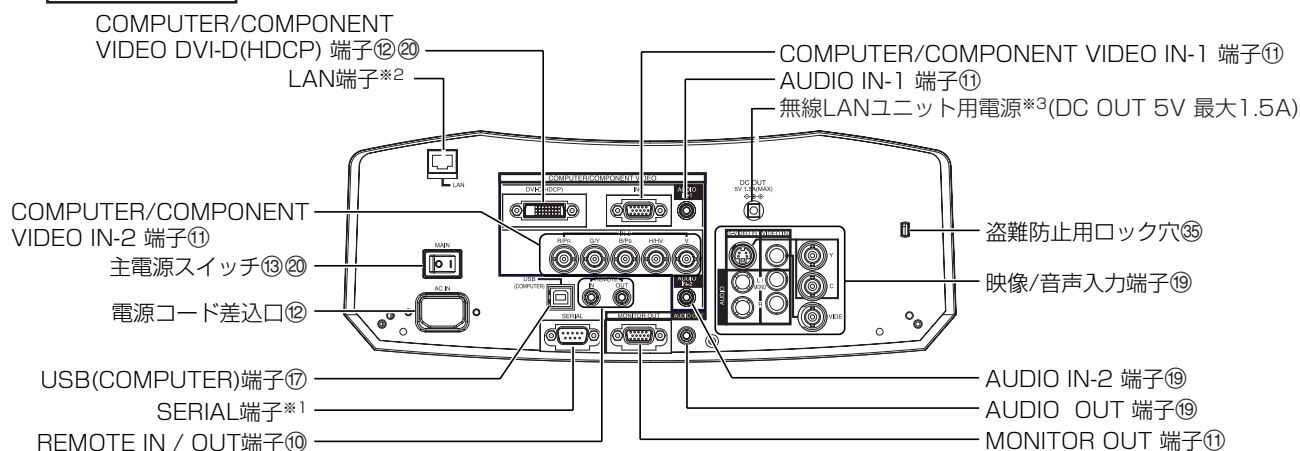
禁止

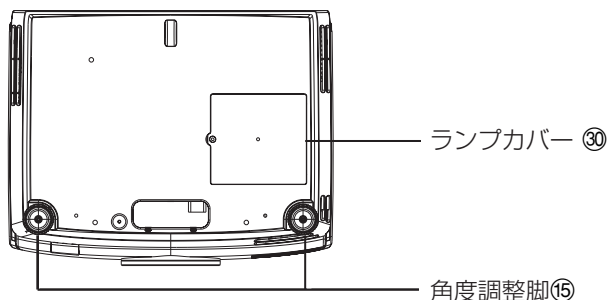
レンズシフト動作中はレンズ開口部に手を入れない

手(指)がはさまれ、けがの原因となることがあります。

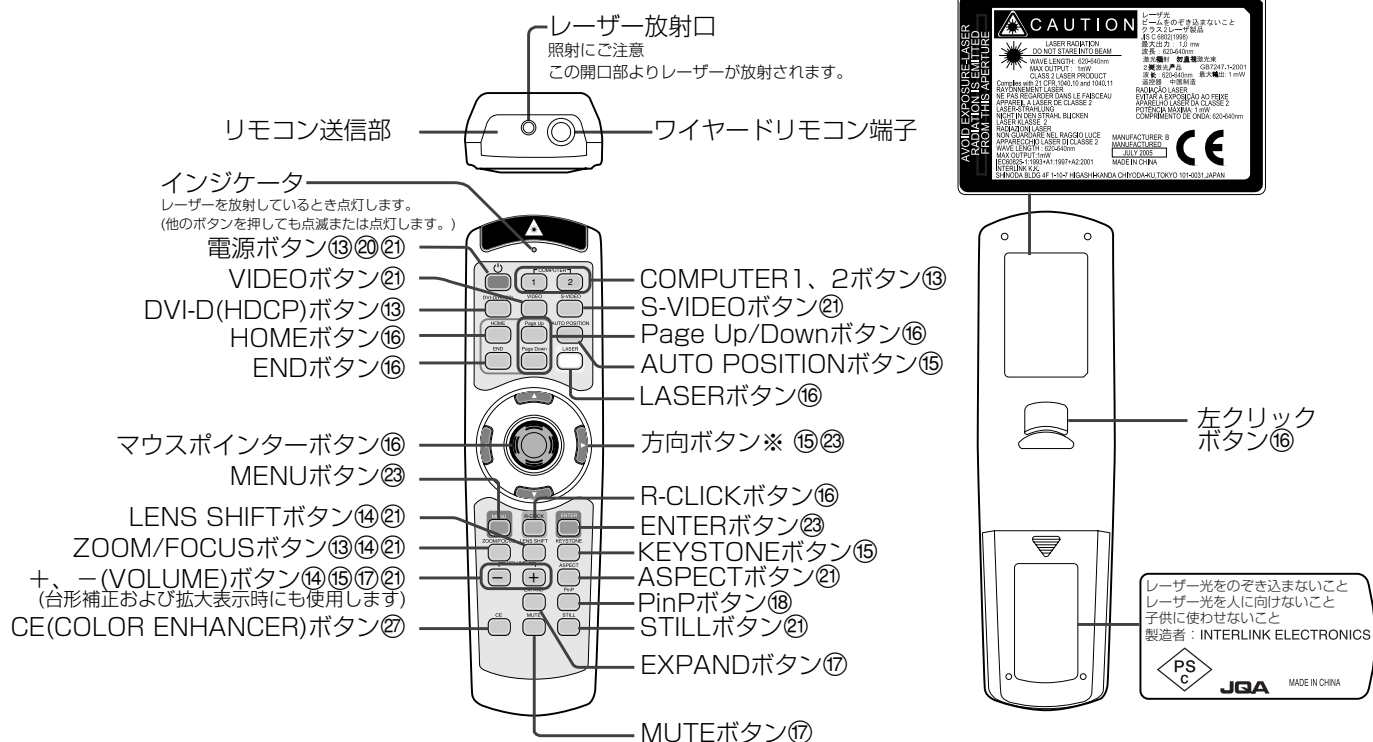
手はさみ注意

各部のなまえ

本体のなまえ（◯は参照ページ）

※1） コンピュータで本機を制御するときに使用します。くわしくは三菱電機テクニカルサポートセンターにご相談ください。
※2） コンピュータで本機を制御するときに使用します。くわしくはCD-ROM内の「LAN制御 UTILITY 操作説明書」をご覧ください。
※3） 指定の無線LANユニット以外の電源として使用しないでください。（無線LANユニットは付属されていません。）

底面部

⚠注意

使用した直後、光源ランプは高温になっていますので交換作業はしないでください。さわるとやけどの原因となります。

リモコンのなまえ（○は参照ページ）

※ 方向ボタンは台形補正、LENS SHIFT調整にも使用します。◀、▶ボタンはPinP子画面移動、ZOOM/FOCUS調整にも使用します。

⚠警告

付属のリモコンは、LASERボタンを押すとレーザー光を発します。
以下の事項を必ずお守りください。

- レーザー光をのぞき込まないこと。
- レーザー光を人に向けないこと。
- 子供に使わせないこと。

レーザー光が目に入ると失明の原因となることがあります。
ご使用になる前にリモコンの注意表示をよくお読みになり、必ずお守りください。

レーザー光について

このリモコンはクラス2（最大出力：1.0mW、レーザー光の波長：620～640nm）レーザー製品です。
ビームの広がり：6mの位置で10.0mm×10.0mm(±6mm)

- ここに規定した以外の手順による制御や調整は、危険なレーザー放射の被ばくをもたらします。

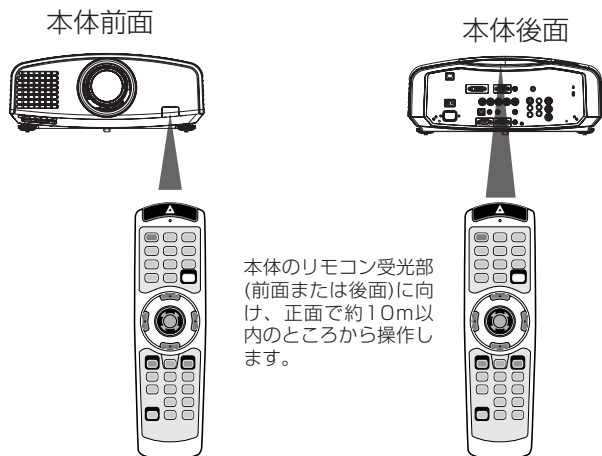
本リモコンは修理できません。

リモコンの使いかた

ワイヤレスリモコンとして使う

本体前面

本体後面

本体のリモコン受光部(前面または後面)に向け、正面で約10m以内のところから操作します。

- リモコン受光部に直射日光や蛍光灯の光などが直接当たらないようにしてください。
- リモコン受光部と蛍光灯は2m以上離してください。リモコンが誤動作することがあります。
- インバータ方式の蛍光灯が近くにある場合、リモコンが効きにくくなることがあります。
- リモコンと本体を近づけ過ぎると、リモコンが効きにくくなることがあります。

- スクリーンに向けて操作する場合は、リモコンからスクリーンを通して本機までの合わせた距離が約7m以内にします。ただし、スクリーンによって操作可能範囲は異なります。

操作範囲

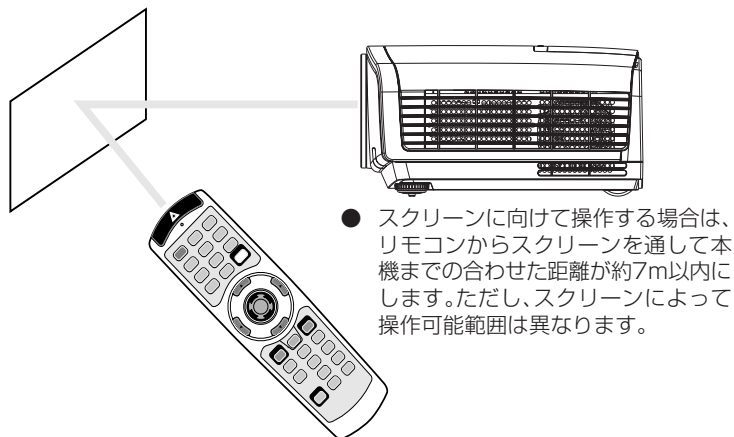
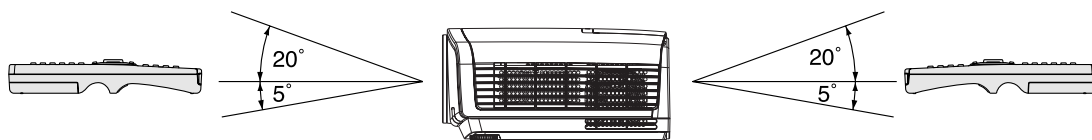
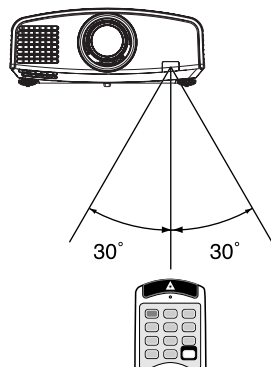
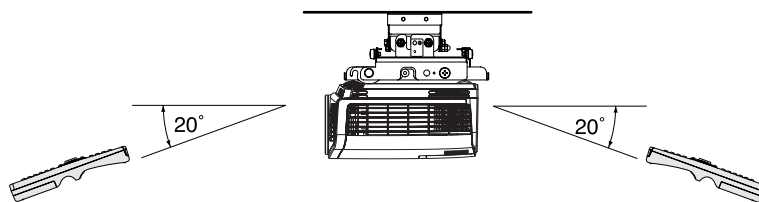
上下方向

20°
5°
20°
5°

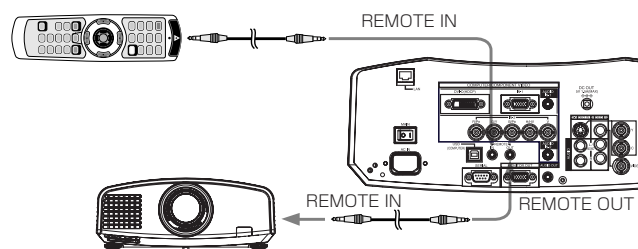
左右方向

30°
30°

上下方向(天吊り時)

20°
20°

ワイヤードリモコンとして使う

本機に付属のリモコンは、リモコンケーブルを接続することにより、ワイヤードリモコンとしても使えますので、操作距離が離れていたり、操作範囲からはずれていても確実に遠隔操作することができます。

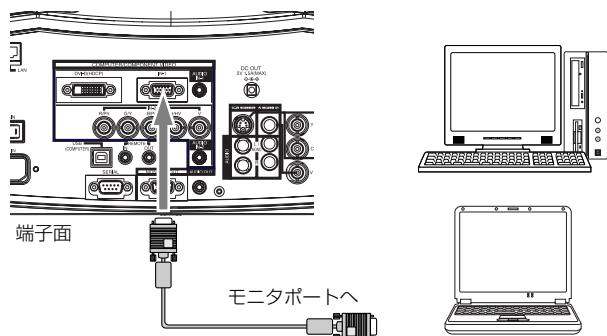
- 接続には、付属のリモコンケーブルまたは市販のφ3.5 ステレオタイプのピンーピンケーブルをご使用ください。ただし、ケーブルによっては正しくはたらかないことがあります。
- ワイヤードリモコンとしてご使用の場合、レーザー光が暗くなることがありますが、故障ではありません。
- 本機のREMOTE OUT端子ともう1台のプロジェクターのREMOTE IN端子をピンーピンケーブルで接続すると、2台同時に操作することができます。(3台以上接続すると正しくはたらかないことがあります。)
- リモコンケーブルが本機に接続されているときは、ワイヤレスリモコンは、働きません。

コンピュータの映像を見る

A.コンピュータと接続する

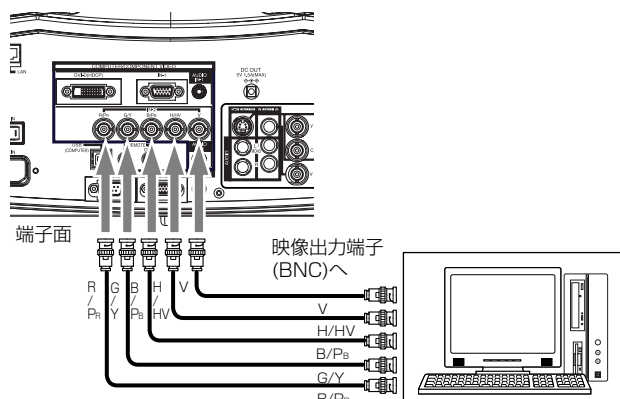
- 接続する機器の説明書もあわせてご覧ください。
- 接続について、くわしくは販売店にお問い合わせください。

準備

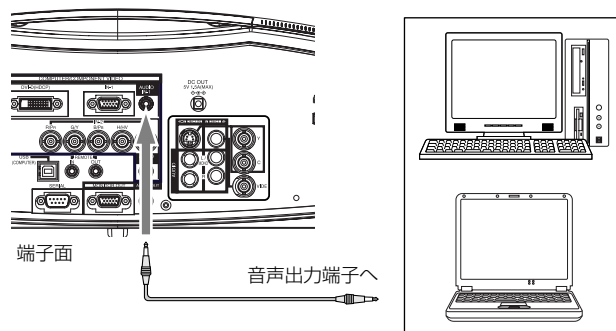
- プロジェクターおよびコンピュータの電源が切れていることを確認する
- デスクトップタイプの場合、モニタに接続されているRGB信号ケーブルをはずす

アナログRGB(ミニD-Sub15ピン)端子付きコンピュータと接続する

1. 付属のRGB信号ケーブルを本機のCOMPUTER/COMPONENT VIDEO IN-1端子に接続する
2. コンピュータのモニタポートにRGB信号ケーブルのもう一方を接続する

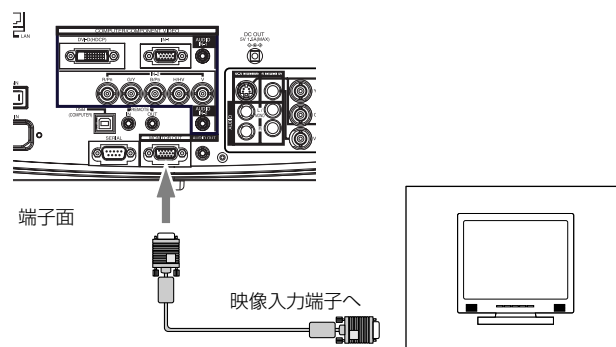
- 接続するコンピュータの機種によっては、変換コネクタやアナログRGB出力アダプタなどが必要な場合があります。
- 付属のRGB信号ケーブル以外の長いケーブルを使用すると正常に映像が映らないことがあります。
- 本機のCOMPUTER/COMPONENT VIDEO IN-1 端子はDDC1/2Bに対応しています。この規格に対応したコンピュータと接続した場合、コンピュータが自動的に本機の情報を読み出し、適切な映像を出力するように設定されます。
- DDC対応のコンピュータと接続している場合、本機の主電源スイッチを入れてからコンピュータを起動してください。

5線式アナログRGB(BNC)端子付きコンピュータと接続する

1. 市販のBNCケーブル(5本)を本機のCOMPUTER/COMPONENT VIDEO IN-2端子に接続する
2. コンピュータの映像出力端子(BNC)にBNCケーブルのもう一方を接続する

- 接続するコンピュータの機種によっては、変換コネクタやアナログRGB出力アダプタなどが必要な場合があります。
- 長いケーブルを使用すると正常に映像が映らないことがあります。

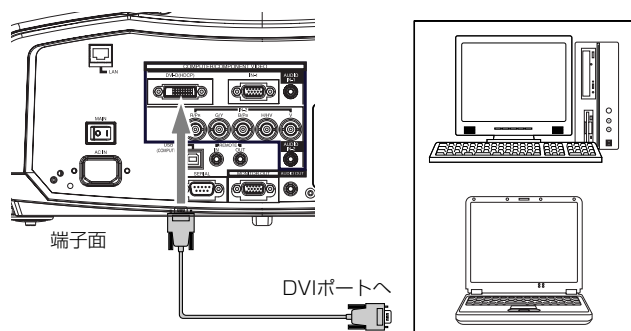
コンピュータの音声をプロジェクターから出力する

1. PC音声ケーブル(市販)を本機のAUDIO IN 1または2端子に接続する
2. PC音声ケーブルのもう一方をコンピュータの音声出力端子に接続する

- 本機の音声入力端子は、ステレオミニジャックです(ただし、スピーカ出力はモノラルになります)。接続するコンピュータの音声出力端子の形状に合わせてケーブルをお買い求めください。

プロジェクターの投写映像をモニタで見る(デスクトップのみ)

1. モニタに接続されているRGB信号ケーブルを本機のMONITOR OUT端子に接続する

- 接続するケーブルによっては、正常に映像が映らないことがあります。

コンピュータの映像を見る(つづき)

DVI端子付きコンピュータと接続する

1 DVIケーブルを本機のCOMPUTER/COMPONENT VIDEO DVI-D(HDCP)端子に接続する

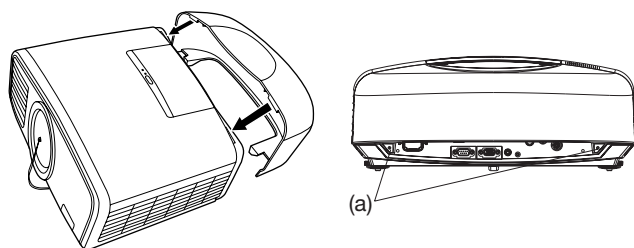
2 コンピュータのDVIポートにDVIケーブルのもう一方を接続する

3 本機の主電源スイッチを入れてからコンピュータを起動してください。

- 先にコンピューターを起動した場合、映像が表示されない場合があります。
- DVI-D入力時、いくつかの信号設定メニューは調整できません。(22ページ参照)

ターミナルカバーを取り付ける

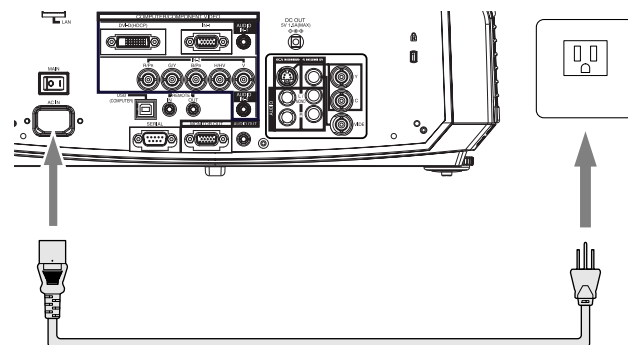
本機には、ターミナルカバーが付属されています。必要な場合、以下の様に取り付けてください。

ターミナルカバーの取り付け方

1 ターミナルカバーの突起部（２カ所）をプロジェクターに差し込む

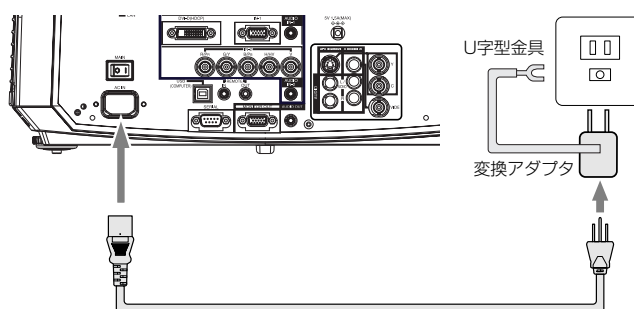
2 ターミナルカバーに取り付けられているネジ2本(a)をプラスドライバーでしっかりと締める

- ターミナルカバーを持って、移動させないでください。

B.電源コードを差し込む

電源コンセントにアース端子の差込口が付いている場合

1 付属の電源コードを本機の電源コード差込口に接続する

2 電源コードのもう一方を電源コンセントに差し込む

電源コンセントにアース端子の差込口が付いていない場合

1 付属の電源コードを本機の電源コード差込口に接続する

2 電源コードのもう一方に付属の変換アダプタを取り付ける

3 変換アダプタのU字型金具を電源コンセントのアース端子に接続する

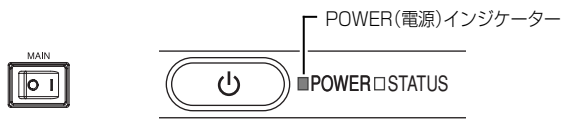
- 接地接続は必ず、電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。また、接地接続をはずす場合は、必ず電源プラグを電源から切り離してから行ってください。
- 電源コンセントにアース端子がない場合は、アース工事を販売店にご依頼ください(有料)。

4 変換アダプタを電源コンセントに差し込む

- 本機の電源は、必ずアース付き交流100Vのコンセントを使用してください。
- 電源プラグのアースをガス管･水道管･避雷針などへ絶対に取付けないでください。

C.投写する

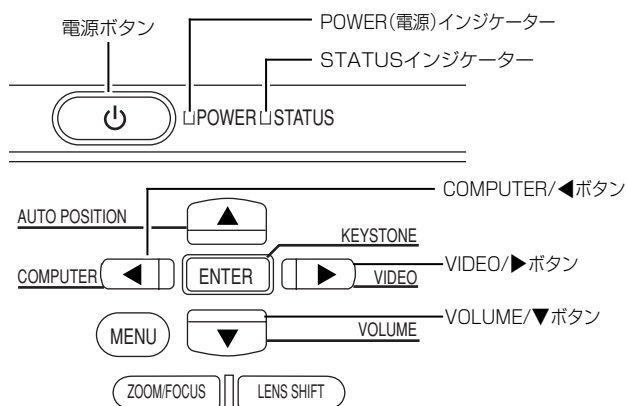
準備

- レンズキャップをはずす

電源を入れる

1 主電源スイッチを入れる

- POWERインジケーターが赤色に点灯します。
- 主電源スイッチを入れると、ファンが回転し電源ボタンが動作しないときがあります。これは前回の使用時に冷却が不完全な状態で終了されたためです。ファンが停止してから電源ボタンを押して、再度点灯させてください。

2 コンピュータの電源を入れる

3 電源ボタン(⏻)を押す

- ランプ点灯に1分程度かかる場合があります。
- まれにランプ点灯に失敗することがあります。数分たってから再度点灯させてください。
- 電源ボタン(⏻)を押したあと、ランプが安定して点灯するまで映像がちらつく場合がありますが、故障ではありません。
- ランプモードは、電源を入れたときは「標準」モードで起動します。「低」モードに設定している場合は、約1分で「低」モードに切り換わります。
- 使用中はレンズキャップをレンズにかぶせないでください。
- レンズキャップ内側のアルミシートを剥がさないでください。

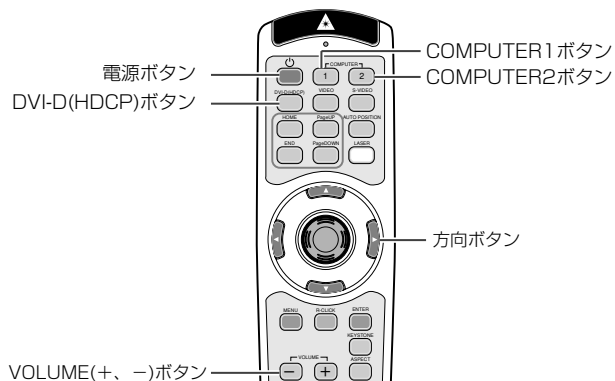
ピントを調整する

4 本体またはリモコンのZOOM/FOCUSボタンを押して画面に「フォーカス」を表示させる

- 無信号時にZOOM/FOCUSボタンを押すとブルーバック画面が表示されます。

5 本体またはリモコンの◀、▶ボタンを押してピントを調整する

入力を切り換える

6 リモコンのCOMPUTER1(または2)ボタン、DVI-D(HDCP)ボタンまたは本体のCOMPUTERボタンを押す

- 本体のCOMPUTERボタンを押すごとに「COMPUTER1」→「COMPUTER2」→「DVI」→「COMPUTER1」と切り換わります。
- ノートタイプのコンピュータの場合、コンピュータ側の設定を変更しないと映像が投写されない場合があります。くわしくは15ページをご覧ください。
- 画面がちらつくときは、リモコンの◀または▶ボタンを押してちらつきをなくしてください。

コンピュータの映像を見る(つづき)

設置する

6 所定の画面サイズが得られるように投写距離を調整して設置する

- スクリーンから本機までの距離は、下の表を目安にして設置してください。

7 本機とスクリーンが垂直になるように設置する

- 本機とスクリーンが垂直にならない場合は、角度調整を行ってください(15ページ参照)。

8 本体またはリモコンのZOOM/FOCUSボタンを押して画面に「フォーカス」を表示させ、再度ボタンを押して「ズーム」を表示させる

- 無信号時にZOOM/FOCUSボタンを押すとブルーバック画面が表示されます。

9 本体またはリモコンの◀、▶ボタンを押して投写画面サイズに合わせる

10 LENS SHIFTボタンを押して画面に「レンズシフト」を表示させる

- 無信号時にLENS SHIFTボタンを押すとブルーバック画面が表示されます。

11 ▲または▼ボタンを押して高さ方向、◀または▶ボタンを押して幅方向を調整し画面位置を合わせる

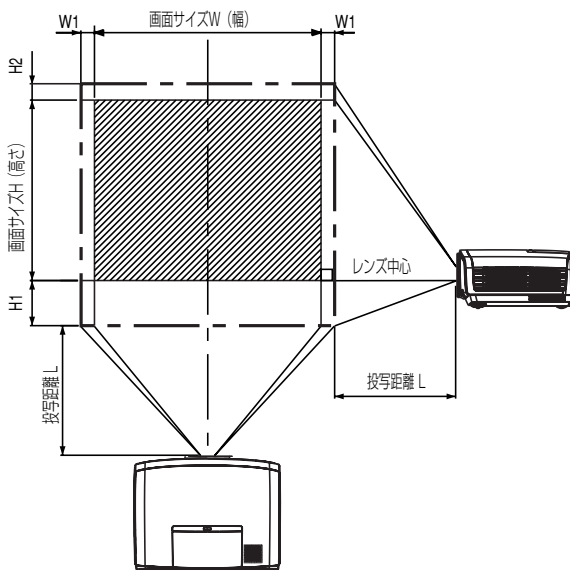
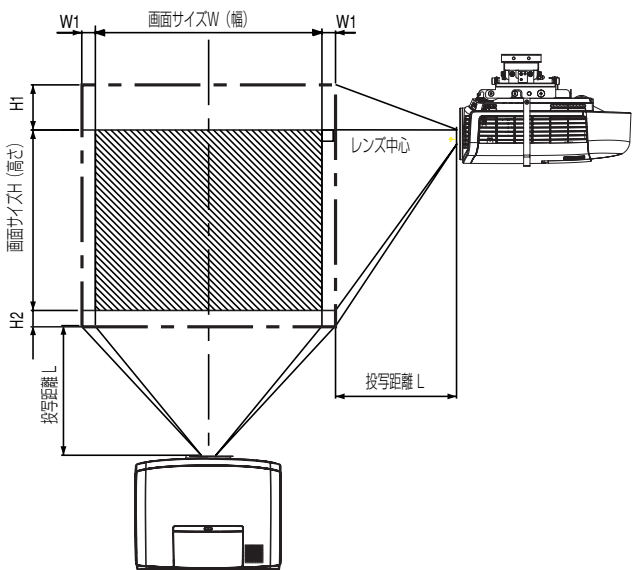
- 矢印ボタンを2秒間以上連続して押し続けると移動速度が早くなります。
- レンズシフト動作中、レンズ開口部に手などをはさまないよう、注意してください。

必要に応じて、操作 3 〜 11 の設定は微調してください。

音量を調整する

12 リモコンのVOLUME(＋または－)ボタンを押して音量を調整する

- 本体で操作する場合は、VOLUMEボタンを押してから、◀または▶ボタンを押して調整します。
- メニューが表示されているときは、VOLUMEボタンははたらきません。

[床置き時]

[天吊り時]

画面サイズ			投写距離:L		レンズ可動範囲		
(型)	幅W(cm)	高さH(cm)	最短(m)	最長(m)	H1(cm)	H2(cm)	W1(cm)
40	81	61	1.4	1.9	30	6	8
60	122	91	2.1	2.8	46	9	12
80	163	122	2.8	3.8	61	11	16
100	203	152	3.5	4.8	76	14	20
150	305	229	5.3	7.2	114	21	30
200	406	305	7.1	9.7	152	28	41
250	508	381	8.9	12.1	191	36	51
300	610	457	10.6	14.5	229	43	61

- 表示値は、実際とは数%誤差が生じることがあります。
- レンズシフト可動範囲は工場出荷時からの値を示します。

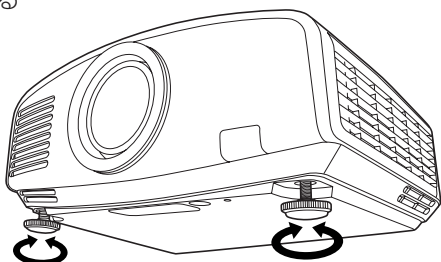
- 設置する場所については、あらかじめ4〜7ページの「安全のために必ずお守りください」をお読みください。
- スクリーンに直接照明などがあたらないようにしてください。映像がぼやけて見えることがあります。
- 天吊りにするなどの設置工事は必ず教育を受けた専門の工事業者に依頼してください。くわしくは35ページをご覧ください。

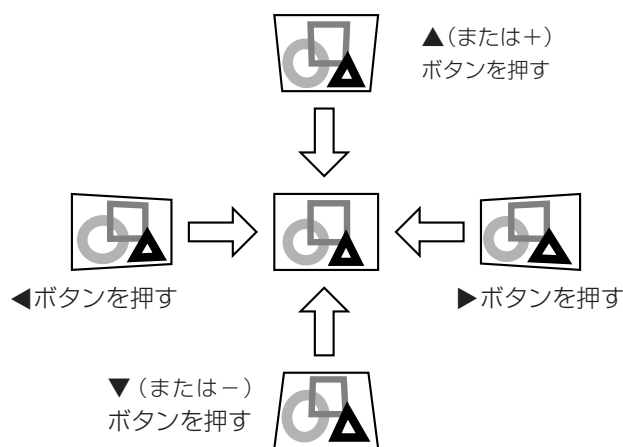
投写角度を調整する

投写した映像がスクリーンからはみだすときは、高さを調整するか、または投写角度を以下のようにして調整してください。

1 本体を投写させたい角度まで持ち上げる

- 傾き角を前後方向に対して30°以内に設置してください(角度調整脚のみによる角度調整角は、最大7°になります)。

2 角度調整脚を左右に回して画面が平行になるように微調整する

画面が台形にひずむときは

スクリーンと本機が直角になっていないと画面が台形になります。本機、およびスクリーンを調整しても直角にならないときは本体、またはリモコンのKEYSTONEボタンを押して「台形補正」を表示させてから、◀、▶、▲(または+)、▼(または−)ボタンを押して調整します。

- 台形補正時には調整値が表示されますが、投写角度とは異なります。
- 調整時に表示される調整値は、設置状態により調整範囲が異なります。
- 本体とスクリーンの設置条件によっては、正しく長方形にならない場合や、アスペクト比が4:3にならない場合があります。
- 台形補正を行うと、解像度が低下します。また、細かい模様の映像でのしまの発生、直線の折れ曲がり等の現象が見られますが、故障ではありません。
- 入力信号によっては、画像が正常に表示されないことがあります。
- 水平・垂直の台形補正を組み合わせて行うと、それぞれ単独で調整する場合よりも、補正できる範囲が狭くなります。
- 台形補正を行うと映像がひずむことがあります。
- レンズ位置が工場出荷時と同じ位置のときに正常な台形補正が可能になります。台形補正を行うときは、レンズシフトリセットを行ってください(24ページ参照)。

電源を切る

13 電源ボタン(⏻)を押す

「電源オフ時は再度電源ボタンを押してSTATUSインジケーターが消えるまでクーリングしてください」のメッセージが表示されます。

- この状態を解除するには、電源ボタン(⏻)以外のボタンを押してください。または10秒後にメッセージは消えます。

14 電源ボタン(⏻)をもういちど押す

光源ランプが消灯し、スタンバイ状態になります。このとき、STATUSインジケーターが点滅します。

15 STATUSインジケーターの緑点滅が消えるまで、約2分間そのまま待つ

- スタンバイ状態で約2分間待つのは、光源ランプを冷やすために、吸、排気ファンが回っているからです。

16 主電源スイッチを切る

POWERインジケーターが消灯します。

- 安全のために必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 外部からのほこりを防ぐためにレンズキャップをしてください。
- ランプ点灯後30分以内に主電源スイッチを切ることを繰り返すと製品のクロック機能を誤動作させる場合があります。

ダイレクトパワーオフ

本機は、電源ボタンを押さずに、主電源スイッチを切る、または電源コードを抜いて電源を切ることができます。

- ランプ点灯後、STATUSインジケーターの点滅中はダイレクトパワーオフを行わないでください。ランプ寿命に影響する恐れがあります。
- ランプ点灯後30分以内でのダイレクトパワーオフを繰り返すと、ランプにダメージを与える恐れがあります。
- ダイレクトパワーオフした場合、すぐに電源を入れないでください。(約10分間お待ちください。)すぐに電源を入れるとランプ寿命に影響する恐れがあります。
- ダイレクトパワーオフする前には必ずメニュー画面を閉じてください。メニュー操作中にダイレクトパワーオフすると、設定内容が記憶されない場合があります。
- ネットワーク機能を用いて本機を制御中にダイレクトパワーオフを行うとProjectorViewなどのアプリケーションソフトに異常が発生する場合があります。くわしくはCD-ROM内の「LAN制御UTILITY操作説明書」をご覧ください。

ノートタイプの場合

ノートタイプのコンピュータと接続した場合、映像が投写されない場合があります。そのときは、コンピュータの信号を外部に出力させる設定を行ってください。設定のしかたは、コンピュータによって異なりますので、コンピュータの取扱説明書をご覧ください。

- 外部出力させる操作の例
  「Fn」キー+「F1」〜「F12」キーのいずれか(機種によって異なります)を押す。

AUTO POSITIONボタンについて

コンピュータの映像がずれるときは以下の操作を行ってください。

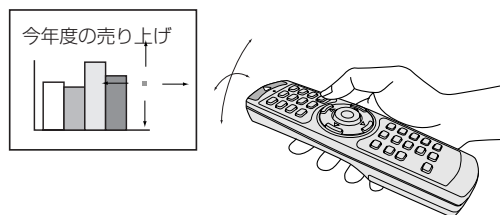
1. できるだけ明るい画面(ゴミ箱などのウィンドウを全画面表示にするなど)にする。
2. スクリーンセーバーがはたらいているときは、スクリーンセーバーを解除する。
3. AUTO POSITIONボタンを押す。
   入力信号に最適な設定になるように自動調整が行われます。

- 数回、AUTO POSITIONボタンを押してもまだずれる場合は、詳細設定メニューで設定を変更して画面の位置を合わせてください(27ページ参照)。

プレゼンテーションを演出する

プレゼンテーションを行う上で、便利な使い方を紹介します。

リモコンをレーザーポインタとして使う

注目させるポイントを赤い点で指し示すことが出来ます。

リモコンのLASERボタンを押している間、レーザー光を発します。

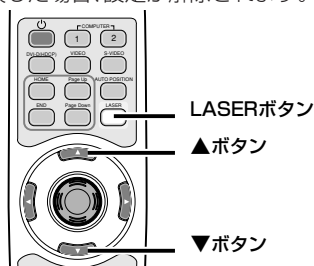
- レーザー光は、1分間照射すると自動的に発光を停止します。もういちど照射する場合は、LASERボタンを一度離してから、もういちど押してください。
- 安全のために、LASERボタンを押してもレーザー光を照射しないようにすることもできます。

設定のしかた

LASERボタンを押しながら▼ボタンを3回押します。

設定解除のしかた

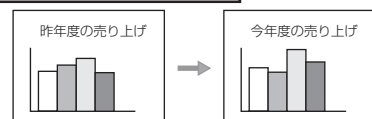
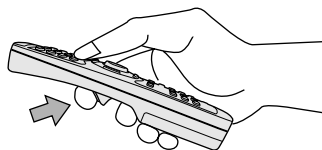
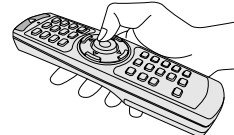
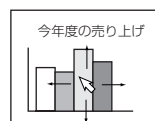
LASERボタンを押しながら▲ボタンを3回押します。

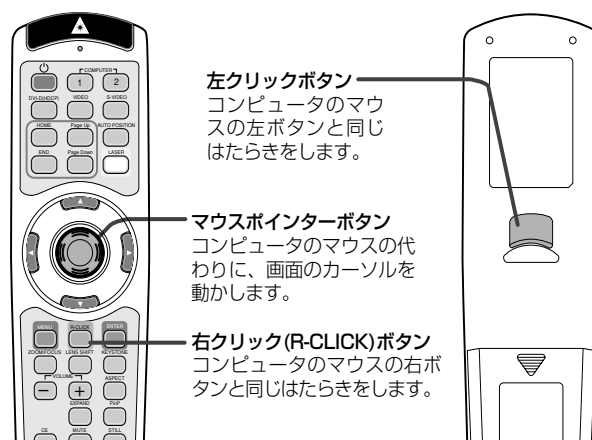
- 電池交換した場合、設定が解除されます。

⚠警告

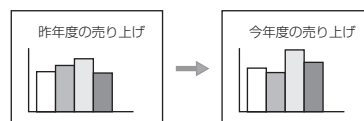
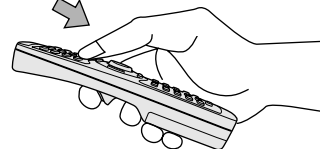
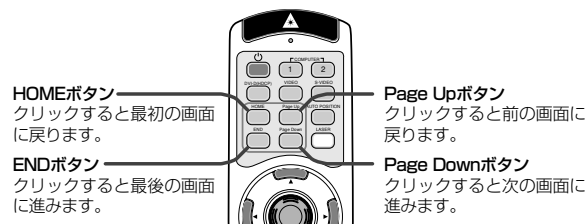
- レーザー光を直接のぞき込まないでください。また、レーザー光を人に向けないでください。レーザー光が目に入ると失明の原因となることがあります。

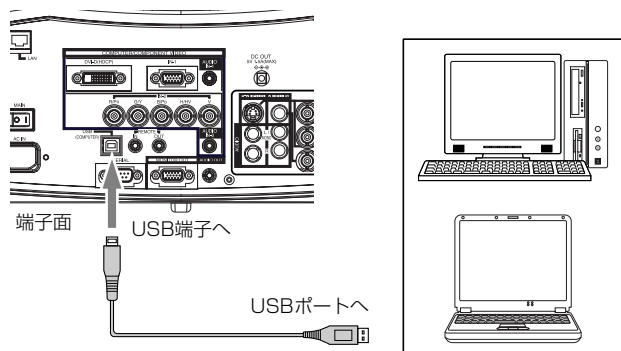
リモコンをコンピュータのマウスとして使う（マウスリモコン）

本機のリモコンでコンピュータの操作が行えるので、たとえば、プレゼンソフトのページをめくったり、コンピュータ画面上のカーソルを動かすことが出来ます。

次の画面へ切換える

左クリックボタンを押して
画面を切り換えます。

カーソルを動かす

マウスポインターボタンを押してカーソルを動かします。

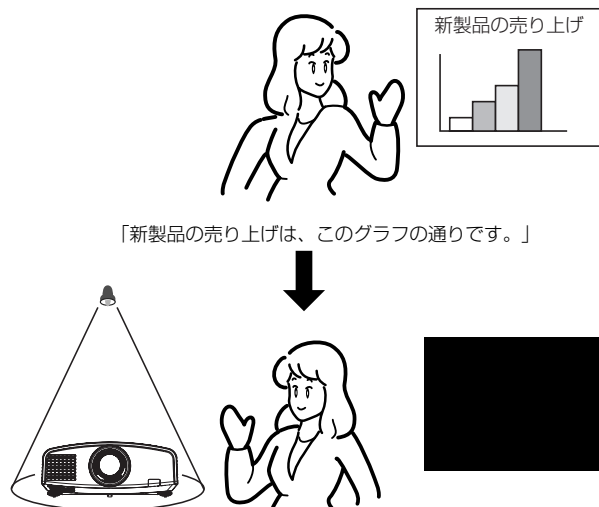
マウスとして使用するボタン

リモコンをプレゼンテーションソフトのページ送りキーとして使う

本機のリモコンでコンピュータの操作が行えるので、プレゼンテーションの画面を進めたり、戻したり、最初のページや最後のページに飛ばしたりすることが出来ます。

ページ送りキーとして使用するボタン

本機のリモコンでコンピュータの操作を行うために、次の接続をします。

USBポート付き機種との接続

- USB接続してマウス操作できるのはUSBを標準でサポートしているパソコンのみです。
- USBケーブルは本機の光源ランプが点灯してから接続してください。
- POWER ON時の数十秒間はマウス機能が停止します。

映像と音声を一時的に消す(AVミュート)

スピーチやプレゼン映像以外のものに視線を集中させたいときなど、一時的に映像と音声を消すことが出来ます。

「新製品の売り上げは、このグラフの通りです。」

「これが、その新製品です。」

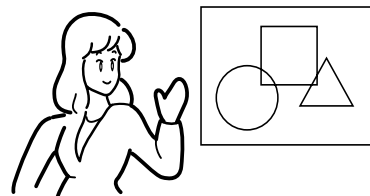
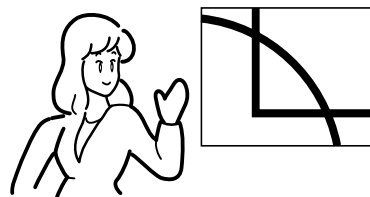
操作のしかた

1 リモコンのMUTEボタンを押す

映像が真っ暗になり、音声が消えます。

- もういちどMUTEボタンを押すと、通常画面にもどります。

画面を拡大して見る(EXPAND)

本機は画面拡大機能により、画面の一部を拡大して見ることができます。

「この丸と四角の交点にご注目ください。」

「少しわかりにくいので拡大してみます。」

表示のしかた

1 リモコンのEXPANDボタンを押す

画面拡大表示になります。

- もういちどEXPANDボタンを押すと、通常画面にもどります。

拡大率を変更するときは

1 リモコンの＋または－ボタンを押す

- ＋ボタンを押すと拡大率が大きく、－ボタンを押すと小さくなります。

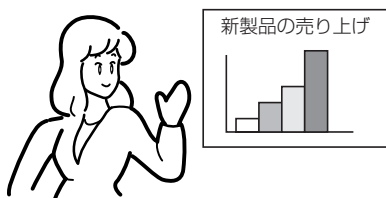
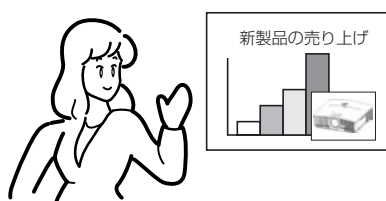
拡大させる範囲を変更するときは

1 ▲、▼、◀、▶ボタンを押す

- 画面拡大表示中は、音量調整はできません。
- 画面拡大表示中は、信号設定メニューは表示できません。
- 画面拡大表示はCOMPUTER IN端子(IN-1, IN-2, DVI-D)からの映像を表示している時のみはたらきます。VIDEO INまたはS-VIDEO IN端子からの映像を表示しているときははたらきません。
- 入力信号によっては、EXPANDがはたらかない場合があります。対応信号については38ページをご覧ください。
- EXPAND動作中はSHUTTERおよびオーバースキャン機能は解除されます。

プレゼンテーションを演出する(つづき)

コンピュータとビデオ映像を同時に見る(PinP)

異なる入力の映像を同時に見ることができます。

売り上げは、この様に順調に伸びています。

その成功の秘訣をビデオ映像で紹介します。

表示のしかた

1 リモコンのPinPボタンを押す

- コンピュータ入力(COMPUTER/COMPONENT VIDEO IN-1または2)端子からの映像を表示しているときのみはたらきます。このとき、ビデオ入力(VIDEO INまたはS-VIDEO IN)端子からの映像が子画面として表示されます。
- もう一度PinPボタンを押すと、通常画面にもどります。

PinP中の入力切換について

- PinP中にCOMPUTERボタンまたはDVI-D(HDCP)ボタンを押すと、PinPを解除し、入力切換えを行います。
- PinP中にVIDEOボタンを押すと、子画面の入力切り換えを行います。

子画面の表示位置を変更するときは

1 ◀または▶ボタンを押す

- 子画面が無信号の場合は表示位置の変更はできません。

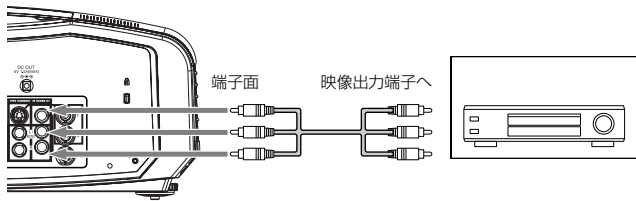
- PinPモード中の音声は、親画面の音声が出力されます。
- PinPモード中は、メニュー画面での信号設定はできません。
- PinPモード中、親画面の入力が無信号になった場合PinPは解除されます。
- 親画面の入力信号によっては、PinPがはたらかない場合があります。対応信号については38ページをご覧ください。
- 入力信号や設定によっては子画面のサイズがかわります。
- アスペクト比がAUTO以外はPinPは動作しません。
- PinP動作中はSHUTTERおよびオーバースキャン機能は解除されます。

ビデオ機器の映像を見る

A. ビデオ機器と接続する

- 接続する機器の説明書もあわせてご覧ください。
- 接続について、くわしくは販売店にお問い合わせください。

準備

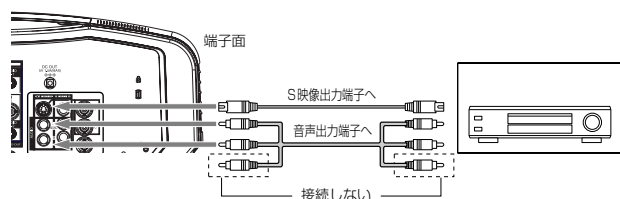
- プロジェクターおよびビデオ機器の電源が切れていることを確認する

1 付属のAVケーブルの黄色のプラグを本機のVIDEO IN端子に接続する

2 付属のAVケーブルの白色(L)および赤色(R)のプラグを本機のAUDIO IN端子に接続する

3 ビデオ機器の映像出力端子にAVケーブルのもう一方の黄色のプラグを接続する

4 ビデオ機器の音声出力端子にAVケーブルのもう一方の白色(L)および赤色(R)のプラグを接続する

- モノラルビデオ機器の場合は、白色(L)端子に接続してください。AUDIO OUTの出力がL/R両方から出ます。
- ビデオ機器の映像出力端子がBNCタイプの場合、VIDEO IN(BNC)端子に接続します。VIDEO IN(BNC)端子とVIDEO IN(RCA)端子の両方に接続した場合、VIDEO IN(RCA)端子からの映像が優先されます。

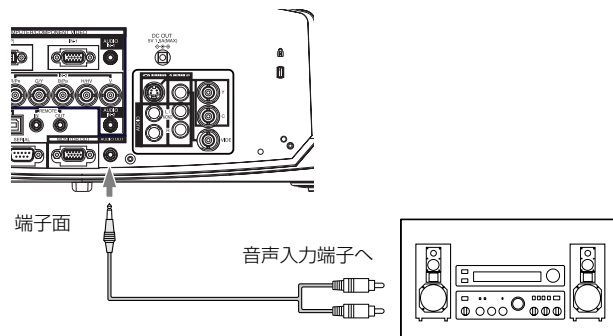
S映像出力端子付きビデオ機器と接続する

1 市販のSビデオケーブルを本機のS-VIDEO IN端子に接続する

2 ビデオ機器のS映像出力端子にSビデオケーブルのもう一方を接続する

3 付属のAVケーブルの白色(L)および赤色(R)のプラグを本機のAUDIO IN端子に接続する

4 ビデオ機器の音声出力端子にAVケーブルのもう一方の白色(L)および赤色(R)のプラグを接続する

- 本機側、ビデオ機器側へは黄色(映像)のプラグは接続しません。
- モノラルビデオ機器の場合は、白色(L)端子に接続してください。AUDIO OUTの出力がL/R両方から出ます。
- ビデオ機器の映像出力端子がBNC(Y、C)タイプの場合、S-VIDEO IN(BNC) 端子にY、C各々を接続します。
- S-VIDEO IN(BNC)端子とS-VIDEO IN(S)端子の両方に接続した場合、S-VIDEO IN(S)端子からの映像が優先されます。

外部スピーカからプロジェクターに接続している機器の音声を出すときは

1 市販の音声ケーブルを本機のAUDIO OUT端子に接続する

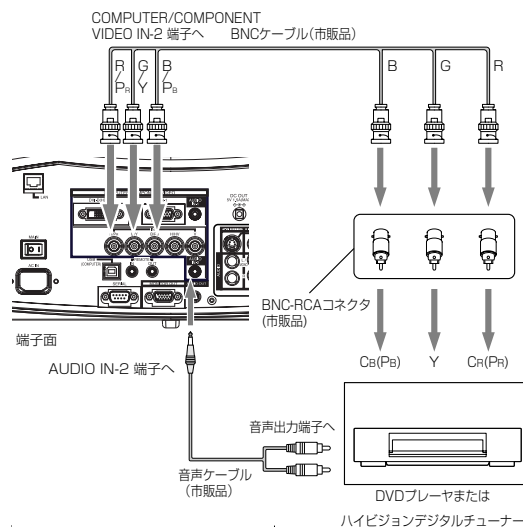
- このとき、内部スピーカーからの音声は出力されなくなります。

2 外部スピーカと接続されたアンプの音声入力端子に音声ケーブルのもう一方を接続する

AUDIO OUT端子からの音声について

- 選択している入力の音声が出力されます。
- MUTEボタンを押すと音声が消えます。
- VOLUME(＋または－)ボタンを押すと音量が変わります。

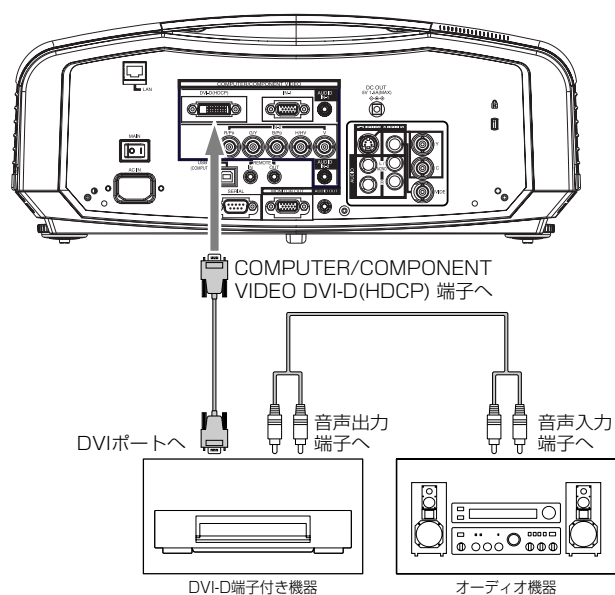
DVDプレーヤまたはハイビジョンデジタルチューナーと接続する

DVDプレーヤ、またはハイビジョンデジタルチューナーなど、コンポーネントビデオ出力端子を持つ機器と本機を接続するときは、COMPUTER/COMPONET VIDEO IN-2端子に接続します。

- 接続はBNCケーブル(3本)を使用ください。DVDプレーヤとの接続にはBNC-RCAコネクタが必要となります。
- DVDプレーヤ、およびハイビジョンデジタルチューナーによっては映像が正しく投写できない場合があります。
- R, G, B出力を持つハイビジョン機器と接続している場合、正常に色がつかないときは信号設定メニューのCOMPUTER入力の設定をRGBにしてください。

ビデオ機器の映像を見る(つづき)

DVI-D 出力端子付き映像機器との接続

本機のDVI端子は、またはDVI-D出力端子付きの映像機器と接続することにより、高画質な映像が投写できます。また、HDCPに対応していますので、DVDプレーヤー等から出力される暗号化されたデジタル画像を受信することができます。

- 入力切換えは、DVI(DVI-D入力)を選択します。
- RGB信号のみに対応しています。色差信号は対応していません。
- HDCP(High-band with Digital Content Protection)とは、Intel社によってコンテンツ保護を目的に開発されたデジタル画像信号の暗号化形式の１つです。
- DVI-D入力時は、色の濃さ、色合い、ファイン、分周比および上部曲がり補正の調整はできません。

- 接続は、市販のDVIケーブルをご使用ください。

デジタル機器との接続について

本機とデジタル機器(DVDプレーヤーなど)をDVI-D(HDCP)端子にて接続した場合、**機器によっては映像の黒レベルが沈み、黒つぶれすることがあります。**これはデジタル映像伝送の規格が2種類あり、黒レベルの設定がそれぞれ異なるためです。デジタル機器によっては異なる規格の信号を出力するものがあります。デジタル機器には、デジタル出力信号規格を切り換える機能が搭載されているものがあります。これを下記のように切り換えてください。

エクスパンドまたはエンハンスド　→　ノーマル

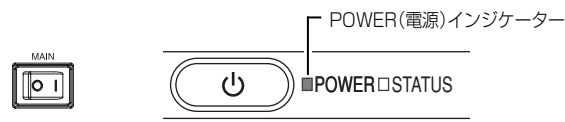
詳細はデジタル機器の取扱説明書をご参照ください。デジタル機器に切り換えがない場合は、**画質メニューのブライトを+16、コントラストを-17にするか、映像に合わせて調整**してごらんください。

B. 電源コードを差し込む

「コンピュータの映像を見る」と同じです。12ページをご覧ください。

C. 投写する

準備

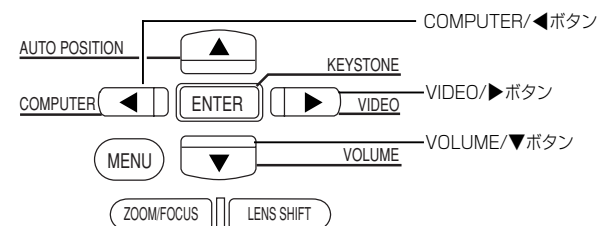
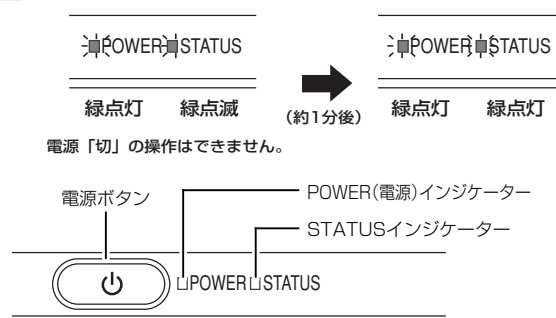
- レンズキャップをはずす

電源を入れる

1 主電源スイッチを入れる

POWER(電源)インジケーター

- POWERインジケーターが赤色に点灯します。
- 主電源スイッチを入れると、ファンが回転し電源ボタンが動作しないときがあります。これは前回の使用時に冷却が不完全な状態で終了されたためです。ファンが停止してから電源ボタンを押して、再度点灯させてください。

2 ビデオ機器の電源を入れる

3 電源ボタン(⏻)を押す

- ランプ点灯に1分程度かかる場合があります。
- まれにランプ点灯に失敗することがあります。数分たってから再度点灯させてください。
- 電源ボタン(⏻)を押したあと、または、ランプモードが切り換わったあと、ランプが安定して点灯するまで映像がちらつく場合がありますが、故障ではありません。
- ランプモードは、電源を入れたときは「標準」モードで起動します。「低」モードに設定している場合は、約1分で「低」モードに切り換わります。
- 使用中はレンズキャップをレンズにかぶせないでください。
- レンズキャップ内側のアルミシートを剥がさないでください。

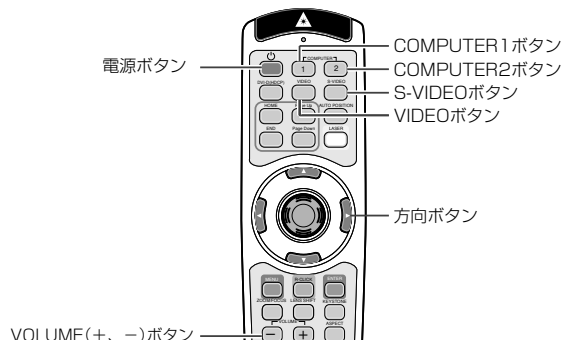
ピントを調整する

4 本体またはリモコンのZOOM/FOCUSボタンを押して画面に「フォーカス」を表示させる

- 無信号時にZOOM/FOCUSボタンを押すとブルーバック画面が表示されます。

5 本体またはリモコンの◀、▶ボタンを押してピントを調整する

入力を切り換える

6 リモコンのVIDEO(またはS-VIDEO)ボタンまたは本体のVIDEOボタンを押す

- 本体のVIDEOボタンを押すごとに「VIDEO」→「S-VIDEO」→「VIDEO」と切り換わります。
- COMPUTER/COMPONENT VIDEO IN-1(または2)端子で接続しているDVDプレーヤやハイビジョンデジタルチューナーの映像を見るときは、COMPUTER1(または2)ボタンまたは本体のCOMPUTERボタンを押します。

設置する

7 所定の画面サイズが得られるように投写距離を調整して設置する

- スクリーンから本機までの距離は、下の表を目安にして設置してください。

8 本機とスクリーンが垂直になるように設置する

- 本機とスクリーンが垂直にならない場合は、角度調整を行ってください(15ページ参照)。

9 本体またはリモコンのZOOM/FOCUSボタンを押して画面に「フォーカス」を表示させ、再度ボタンを押して「ズーム」を表示させる

- 無信号時にZOOM/FOCUSボタンを押すとブルーバック画面が表示されます。

10 本体またはリモコンの◀、▶ボタンを押して投写画面サイズに合わせる

11 LENS SHIFTボタンを押して画面に「レンズシフト」を表示させる

- 無信号時にLENS SHIFTボタンを押すとブルーバック画面が表示されます。

12 ▲または▼ボタンを押して高さ方向、◀または▶ボタンを押して幅方向を調整し画面位置を合わせる

  - 矢印ボタンを2秒間以上連続して押し続けると移動速度が早くなります。
  - レンズシフト動作中、レンズに手などをはさまないよう、注意してください。

必要に応じて、操作 4 〜 12 の設定は微調してください。

音量を調整する

13 リモコンのVOLUME(+または−)ボタンを押して音量を調整する

- 本体で操作する場合は、VOLUMEボタンを押してから、◀または▶ボタンを押して調整します。
- メニューが表示されているときは、VOLUMEボタンははたらきません。

電源を切る

14 電源ボタン(⏻)を押す

「電源オフ時は再度電源ボタンを押してSTATUSインジケーターが消えるまでクーリングしてください」のメッセージが表示されます。

- この状態を解除するには、電源ボタン(⏻)以外のボタンを押してください。または10秒後にメッセージは消えます。

15 電源ボタン(⏻)をもういちど押す

光源ランプが消灯し、スタンバイ状態になります。このとき、STATUSインジケーターが点滅します。

16 STATUSインジケーターの緑点滅が消えるまで、約2分間そのまま待つ

- スタンバイ状態で約2分間待つのは、光源ランプを冷やすために、吸、排気ファンが回っているからです。

17 主電源スイッチを切る

POWERインジケーターが消灯します。

- 安全のために必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 外部からのほこりを防ぐためにレンズキャップをしてください。
- ランプ点灯後30分以内に主電源スイッチを切ることを繰り返すと製品のクロック機能を誤動作させる場合があります。

ダイレクトパワーオフ

本機は、電源ボタンを押さずに、主電源スイッチを切る、または電源コードを抜いて電源を切ることができます。くわしくは、15ページをご覧ください。

静止画について

リモコンのSTILLボタンを押すと、映像が一時的に停止します。もう一度押すと通常画面にもどります。

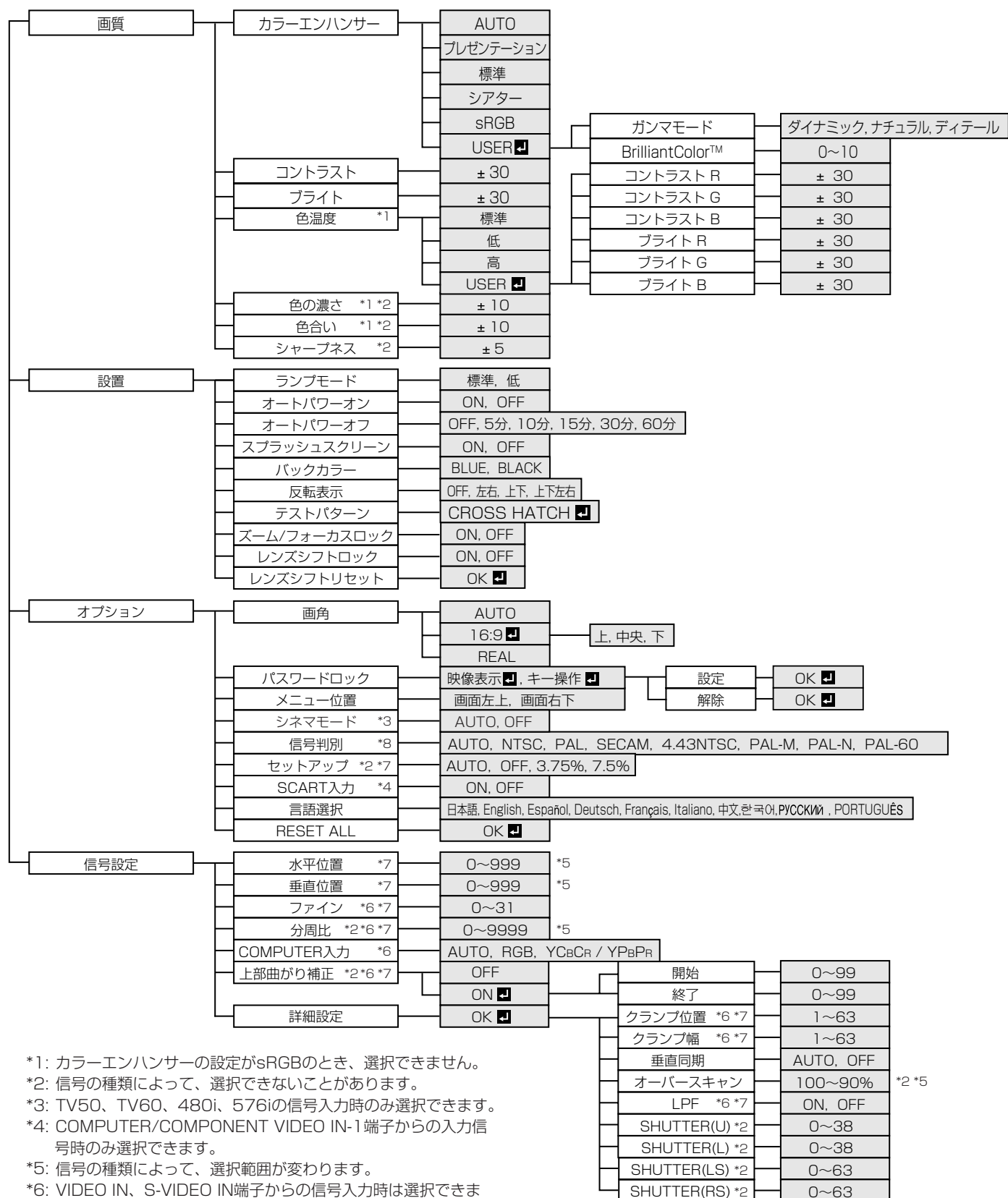
- 音声は通常どおり聞こえます。
- 静止画中にSTILLボタン以外のボタンを押しても通常画面にもどります(一部、もどらないボタンもあります)。
- 静止画を表示し続けた場合、残像が発生することがありますので長時間静止画を表示させないでください。

ASPECTボタンについて

スクイーズ(左右に圧縮)された映像が記録されたDVDディスクなどを投写するときにASPECTボタンを押すとアスペクト比が切り換わります。

- ASPECTボタンを押すごとに「AUTO」→「16:9」→「REAL」→「AUTO」と切り換わります。
- オプションメニューの画角で16:9↵を選択すると、表示位置の選択ができます。
- 長時間16:9画面で使用されたあと、4:3表示で使用されると、画面の上下にマスク部分の痕跡が残る場合があります。このような場合にはテクニカルサポートセンターにご相談ください。

メニューを使って設定する

メニュー遷移図

*1: カラーエンハンサーの設定がsRGBのとき、選択できません。
*2: 信号の種類によって、選択できないことがあります。
*3: TV50、TV60、480i、576iの信号入力時のみ選択できます。
*4: COMPUTER/COMPONENT VIDEO IN-1端子からの入力信号時のみ選択できます。
*5: 信号の種類によって、選択範囲が変わります。
*6: VIDEO IN、S-VIDEO IN端子からの信号入力時は選択できません。
*7: DVI入力時は選択できません。
*8: VIDEO IN、S-VIDEO IN端子からの信号入力時のみ選択できます。

● メニュー画面上の「↵」マークのある項目は、確定するためには項目を選んでからENTERボタンを押す必要があります。

メニュー設定のしかた

画面はオートパワーオンの設定を例として説明しています。

1 MENUボタンを押す

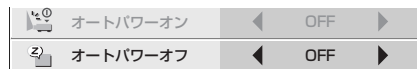
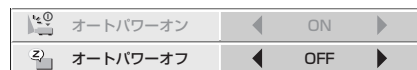
● メニュー選択バーが表示されます。

2 ◀、▶**ボタン**を押して表示させたいメニューを選ぶ

● ◀、▶**ボタン**を押すごとに「画質」⇔「設置」⇔「オプション」⇔「信号設定」⇔「画質」と切り換わります。

3 ENTERボタン(または▼**ボタン**)を押す

● 希望のメニューが表示されます。

4 ▲、▼**ボタン**を押して設定したい項目を選ぶ

5 ◀、▶**ボタン**を押して設定する

メニューを消すときは

6 MENUボタンを数回押す

● ボタンを押しても、メニュー画面の操作ができなくなることがあります。この場合、誤動作している可能性があります。このときは、一度電源プラグをコンセントから抜き、10分以上たってからもう一度電源プラグをコンセントに接続してください。

● 画質メニュー、信号設定メニュー、および詳細設定メニューの調整は、外部からの入力信号が入力されている状態のみ行えます。

メニューで設定できること

本機では、以下の設定はメニュー画面を表示させて行います。

画質メニュー

※外部信号が入力されていないと調整はできません。

設定項目	設定	はたらき
カラーエンハンサー	AUTO	入力信号に適した設定になります(通常はこれを選びます)。
	プレゼンテーション	明るくメリハリのある映像になります。
	標準	自然な映像になります。
	シアター	映画向けにしっとりした映像に設定されます。
	sRGB	色再現性を重視した画像になります。
	USER↵	ガンマカーブ、BrilliantColor™の設定をお好みに設定できます(27ページ参照)。
コントラスト	−30 ~ +30	映像のコントラストを調整します(26ページ参照)。
ブライト	−30 ~ +30	映像の明るさを調整します(26ページ参照)。
色温度	標準/低/高/USER↵	映像の色温度を調整します (26ページ参照)。
色の濃さ	−10 ~ +10	映像の色の濃さを調整します(26ページ参照)。
色合い	−10 ~ +10	映像の色合いを調整します(26ページ参照)。
シャープネス	−5 ~ +5	映像の鮮鋭度を調整します(26ページ参照)。

● TV50(PAL、SECAM)信号入力時は色合いの調整はできません。

メニューを使って設定する(つづき)

設置メニュー

XGA60	
設置	
ランプモード	標準
オートパワーオン	OFF
オートパワーオフ	OFF
スプラッシュスクリーン	ON
バックカラー	BLUE
反転表示	OFF
テストパターン	CROSS HATCH ↵
ズーム/フォーカスロック	OFF
レンズシフトロック	OFF
レンズシフトリセット	OK ↵

設定項目	設定	はたらき
ランプモード	標準	通常はこれを選びます。
	低	ランプの明るさを抑えるモードです。動作音が小さくなり、光源ランプの交換に至るまでの時間が長くなります。
オートパワーオン	OFF	通常はこれを選びます。
	ON	電源プラグをコンセントに接続したとき、自動的に電源が入ります。天吊り時などに設定します。
オートパワーオフ	OFF	オートパワーオフは、はたらきません。
	5分,10分,15分,30分,60分	映像信号が未入力のとき設定した時間になると自動的に電源が切れます。
スプラッシュスクリーン	ON	電源を入れたときスプラッシュスクリーン(起動画面)を表示します。
	OFF	スプラッシュスクリーン(起動画面)を表示しません。
バックカラー	BLUE/BLACK	無信号時の背景の色を選択します。
反転表示	OFF	床置きで正面から映像を見るときに選びます。通常はこれを選びます。
	左右	床置きでスクリーンの裏側から映像を見るときに選びます。
	上下	天吊りして、スクリーンの裏側から映像を見るときに選びます。
	上下左右	天吊りして、正面から映像を見るときに選びます。
テストパターン	CROSS HATCH↵	クロスハッチのテストパターンを表示します。
ズーム/フォーカスロック	ON/OFF	ズームとフォーカスをロックします。
レンズシフトロック	ON/OFF	レンズシフトをロックします。
レンズシフトリセット	OK↵	ENTERボタンを押すと、レンズ位置を工場出荷時の位置にもどします。

- ランプモードは、電源を入れたときは「標準」モードで起動します。「低」モードに設定している場合は、約1分で「低」モードに切り換わります。
- ランプモードを切り換えたとき、映像がちらつく場合がありますが、故障ではありません。
- ランプモードは頻繁に切り換えないでください。
- テストパターン表示中、いずれかのボタンを押すとテストパターンは解除されます。

オプションメニュー

XGA60	
オプション	
画角	AUTO
パスワードロック	映像表示 ↵
メニュー位置	1.
シネマモード	AUTO
信号判別	AUTO
セットアップ	RGB
SCART入力	OFF
言語選択	日本語
RESET ALL	OK ↵

設定項目	設定	はたらき
画角	AUTO	入力信号に合わせて自動的に最適なアスペクト比が選ばれます。
	16:9↵	スクイーズ(左右に圧縮)された映像が記録されたDVDディスクなどを投射するときの投射位置を選択します。ENTERキーを押すと上、中央、下に表示位置が変更できます。
	REAL	入力信号をそのままの大きさで表示します。
パスワードロック	映像表示↵/キー操作↵	パスワードロック機能のモード切り換え、およびパスワードロック機能の設定、解除に使います(28ページ参照)。
メニュー位置	左上/右下	メニューの表示位置を切り換えます。
シネマモード	AUTO	フィルム映像信号を入力したとき、自動的にフィルムモード処理を行います。
	OFF	フィルムモード処理は行いません。
信号判別	AUTO、NTSC、PAL他	ビデオ信号のカラー方式を選択します(通常はAUTOに設定します)。
セットアップ	AUTO	自動的にセットアップ設定を切り換えます。
	OFF	国内盤のLDやDVDの映像を見るときに選択します。
	3.75%, 7.5%	米国盤のLDやDVDの映像を見るときに選択します。
SCART入力	OFF/ON	欧州などで使用されているSCART端子付の機器と接続するときはONを選択します。COMPUTER/COMPONENT VIDEO IN-1端子からの入力時のみ有効です。通常はOFFを選択します。
言語選択	10言語	メニュー画面などの画面上に表示される言語を選びます。
RESET ALL	OK↵	ENTERボタンを押すと、メニュー画面の設定をすべて工場出荷時の値にもどします(言語選択、およびパスワードロックを除く)。

- SCART入力の設定を「ON」にしているとき、外部モニター出力はできません。
- SCART入力の設定を「ON」にしているとき、通常のコンピュータ信号は映りません。
- 信号判別の設定を「AUTO」にしているとき、正常に色がつかないことがあります。そのときは、入力信号に合わせた方式に設定してください。
- RESET ALLには、少し時間がかかることがあります。

信号設定メニュー

※外部信号が入力されていないと調整はできません。

設定項目	設定	はたらき
水平位置	0 ～ 999 *	映像の表示位置を左右に動かします。
垂直位置	0 ～ 999 *	映像の表示位置を上下に動かします。
ファイン	0 ～ 31	映像にちらつきやぼけが出たときに、画面を見ながら調整します。
分周比	0 ～ 9999 *	映像に幅広の縞模様が出たときに、画面を見ながら調整します。
COMPUTER入力	AUTO	自動的に最適な値に設定します。
	RGB	R,G,B出力端子を持つハイビジョン機器と接続している場合、正常に色がつかないときはこちらに合わせます。
	YCBCR/YPBPR	Y、CB、CRコンポーネントビデオ出力端子を持つDVDプレーヤまたはY、PB、PRコンポーネントビデオ出力端子を持つハイビジョンデジタルチューナーなどと接続しているとき、DVDプレーヤなどで480p(525p)信号を入力しているとき、正常に色がつかないときはこちらに合わせます。
上部曲がり補正	OFF	上部曲がりに対する調整を行いません。
	ON↵	画面に上部曲がりが行ったときに調整します。
詳細設定	OK↵	ENTERボタンを押すと詳細設定メニューが表示されます。

Opt	XGA60	
信号設定		
水平位置	◀	0 ▶
垂直位置	◀	0 ▶
ファイン	◀	0 ▶
分周比	◀	0 ▶
COMPUTER入力	◀	AUTO ▶
上部曲がり補正	◀	OFF ▶
詳細設定	◀	OK↵ ▶

詳細設定メニュー

※外部信号が入力されていないと調整はできません。通常、さわらないでください。

設定項目	設定	はたらき
クランプ位置	1 ～ 63	投写画面が白くつぶれたり黒くつぶれたりするときに調整します。
クランプ幅	1 ～ 63	投写画面が黒くつぶれるときに調整します。
垂直同期	AUTO	通常はこちらに合わせます。
	OFF	映像の動きが不自然なときに合わせます。
オーバースキャン	100 ～ 90% *	投射映像の表示領域を調整します。
LPF	ON, OFF	プログレッシブフィルターをはたらかせるかどうかを選択します。通常はOFFを選択します。
SHUTTER(U)	0 ～ 38	画面の上にノイズが出る場合に調整します。
SHUTTER(L)	0 ～ 38	画面の下にノイズが出る場合に調整します。
SHUTTER(LS)	0 ～ 63	画面の左にノイズが出る場合に調整します。
SHUTTER(RS)	0 ～ 63	画面の右にノイズが出る場合に調整します。

信号設定		
詳細設定		
CLAMP クランプ位置	◀	1 ▶
CLAMP クランプ幅	◀	1 ▶
垂直同期	◀	AUTO ▶
オーバースキャン	◀	100% ▶
LPF	◀	OFF ▶
SHUTTER(U)	◀	0 ▶
SHUTTER(L)	◀	0 ▶
SHUTTER(LS)	◀	0 ▶
SHUTTER(RS)	◀	0 ▶

● *マークのある項目は他の設定によって設定範囲が変化します。

LPF(プログレッシブフィルター)について

ご使用になるDVDプレーヤー 、ゲーム機によっては画面の縦、横方向に薄いスジ状のノイズが現れる場合があります。この場合、LPFをONにすることによりプログレッシブフィルターがはたらき、これらのスジ状のノイズを軽減することができます。ただし、映像の鮮鋭度は弱くなります。

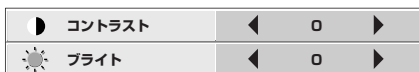
映像を調整する

映像の明るさを調整する(コントラスト、ブライト)

メニューを使って映像の明るさに関する調整をします。

1 画質メニューを表示させる(メニュー設定のしかたは23ページ参照)

2 ▲、▼ボタンを押す

● 「コントラスト」または「ブライト」を選びます。

コントラスト	◀	0	▶
ブライト	◀	0	▶

3 ◀、▶ボタンを押して調整する

コントラスト .... ▶ボタンを押すごとに映像が明るくメリハリが出ます。◀ボタンを押すごとに映像が暗くしっとりとします。

ブライト .... ▶ボタンを押すごとに映像が明るくなります。◀ボタンを押すごとに映像が暗くなります。

白の色合いを調整する(色温度の詳細設定)

メニューを使って色温度(白の色合い)の調整をします。

1 画質メニューを表示させる(メニュー設定のしかたは23ページ参照)

2 ▲、▼ボタンを押して「色温度」を選ぶ

3 ◀、▶ボタンを押して「USER↵」を選ぶ

4 ENTERボタンを押す

● 色温度の詳細メニューが表示されます。

色温度-USER			
コントラストR	◀	0	▶
コントラストG	◀	0	▶
コントラストB	◀	0	▶
ブライトR	◀	0	▶
ブライトG	◀	0	▶
ブライトB	◀	0	▶

5 ▲、▼ボタンを押して設定したい項目を選ぶ

6 ◀、▶ボタンを押して設定する

7 操作5、6を繰り返して設定する

8 MENUボタンを3回押す

色温度について

同じ白色といっても、いろいろの程度があります。白さの程度を表す方法のひとつに色温度があります。色温度の低い白色は赤みがかった白色となり、色温度の高い白色は青みがかった白色となります。たとえば、下記のように設定することで色温度を設定することが可能です。
色温度を高くするには、コントラストB(青)の数値を大きく、コントラストR(赤)の数値を小さく設定します。
色温度を低くするには、コントラストB(青)の数値を小さく、コントラストR(赤)の数値を大きく設定します。

● コントラストR、G、Bをすべてマイナスに設定すると、画質メニューのコントラストの設定を最大にしても、本来の明るさが出なくなりますので注意してください。

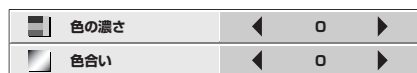
色を調整する(色の濃さ、色合い)

メニューを使って映像の色に関する調整をします。

1 画質メニューを表示させる(メニュー設定のしかたは23ページ参照)

2 ▲、▼ボタンを押す

● 「色の濃さ」または「色合い」を選びます。

色の濃さ	◀	0	▶
色合い	◀	0	▶

3 ◀、▶ボタンを押して調整する

色の濃さ .... ▶ ボタンを押すごとに色が濃くなります。◀ ボタンを押すごとに色が薄くなります。

色合い .... ▶ボタンを押すごとに肌色が緑がかります。◀ボタンを押すごとに肌色が紫がかります。

● 「色合い」は、ビデオ入力時のみ表示されます。
● 「色合い」は、NTSC、4.43NTSC時のみはたらきます。
● 「色の濃さ」は、信号の種類によって、選択できないことがあります。

映像をくっきりさせたり、ソフトにする(シャープネス)

メニューを使って映像の鮮鋭度に関する調整をします。

1 画質メニューを表示させる(メニュー設定のしかたは23ページ参照)

2 ▲、▼ボタンを押して「シャープネス」を選ぶ

3 ◀、▶ボタンを押して調整する

● 信号の種類によって、選択できないことがあります。

独自の明るさと色合いを設定する(カラーエンハンサーの詳細設定)

メニューを使って独自の明るさと色合いのバランスを設定します。

1 画質メニューを表示させる(メニュー設定のしかたは23ページ参照)

2 ▲、▼ボタンを押して「カラーエンハンサー」を選ぶ

カラーエンハンサー	◀	AUTO	▶

3 ◀、▶ボタンを押して「USER↵」を選ぶ

4 ENTERボタンを押す

カラーエンハンサーーUSER			
ガンマモード	◀	ダイナミック	▶
BrilliantColor™	◀	10	▶

5 ▲、▼ボタンを押して設定する項目を選ぶ

ガンマモード

最適なガンマに設定します。

ダイナミック .... コンピュータ映像に適した設定になります。

ナチュラル .... ビデオ映像に適した設定になります。

ディテール .... 映画、音楽ライブを見るときなど比較的輝度を抑えたいときに選びます。

BrilliantColor™

BrilliantColor™は米国テキサスインスツルメンツ社のBrilliantColor™テクノロジーを使用しており、設定をONにすることにより優れた色彩を提供しながら、さらに高輝度の画像を実現します。◀ボタンを押して値を小さくすると効果が弱くなり、▶ボタンを押して値を大きくすると効果が強くなります。(0に設定すると、BrilliantColor™ははたらきません。)

6 ◀、▶ボタンを押して設定する

● 「カラーエンハンサー」は、リモコンのCEボタンを押しても調整できます。

リモコンを使って設定します。

1 リモコンのCEボタンを押す

2 カラーエンハンサーの調整用の画面が右上に表示される

3 表示したまま◀、▶ボタンを押して「USER↵」を選ぶ

4 ENTERボタンを押す

5 ▲、▼ボタンを押して、ガンマモードメニューとBrilliantColor™メニューの項目を選ぶ

6 選択後◀、▶ボタンを押して設定する

コンピュータ映像の調整

本機は、コンピュータからの映像の信号に合わせて自動的に適切な信号形式に設定しますが、コンピュータの種類によっては、正しく投写できない場合があります。そのときは、AUTO POSITIONボタンを押してください(15ページ参照)。それでも正しく投写されないときはメニュー画面を使って投写されるコンピュータ映像を調整します。また、設定した内容は自動的に記録されます。

メニュー画面を使ったコンピュータ映像の調整のしかた

次のような症状のときは以下のように調整してください。

● **投写画面が左右にずれる**
信号設定メニューの水平位置を調整します。◀ボタンを押すごとに映像が右にずれます。▶ボタンを押すごとに映像が左にずれます。

● **投写画面が上下にずれる**
信号設定メニューの垂直位置を調整します。◀ボタンを押すごとに映像が下にずれます。▶ボタンを押すごとに映像が上にずれます。

● **投写画面がちらつく、ぼける**
信号設定メニューのファインを調整します。

● **幅広のしま模様が出る**
信号設定メニューの分周比を調整します。

● **画面が白く(または黒く)つぶれる**
信号設定メニューの詳細メニューの中のクランプ位置またはクランプ幅を調整します。

● **画面の左右にノイズなどが出る**
信号設定メニューの中の詳細メニューのSHUTTER(LS)またはSHUTTER(RS)を調整します。

● **画面の上下にノイズなどが出る**
信号設定メニューの中の詳細メニューのSHUTTER(U)またはSHUTTER(L)を調整します。

● **画面に上部曲がりがおこる**
信号設定メニューの上部曲がり補正の設定を変更します。設定を「ON↵」にしてENTERボタンを押し、「開始」および「終了」の値を調整して最も上部曲がりを少なくします。

● **映像の動きが不自然**
信号設定メニューの中の詳細メニューの垂直同期を調整します。通常は「AUTO」に設定してください。
※ 信号設定メニューの中の詳細メニューの設定は通常、変更しないでください。

簡単な画面位置調整のしかた(AUTO POSITIONボタンで調整できない場合)

水平位置の調整:

1 水平位置を調整して映像の左端を合わせ、分周比を調整して右端を合わせる。

2 操作1を繰り返し、水平位置の調整を行う。

垂直位置の調整:

3 垂直位置を調整して映像の上端を合わせる。

パスワードを設定する

本機はパスワードロック機能により、お子さまによる誤操作防止および特定者以外による操作を制限することなどができます。

映像表示

電源を入れたとき、起動画面(スプラッシュ画面)が表示されたままになります。パスワードを入力することにより、通常の画面に切り替わります。

キー操作

本体の電源ボタン以外のボタン操作ができなくなります(リモコンのボタン操作はできます)。お子様による誤操作防止や特定者以外による操作の制限ができます。

パスワードロックの設定のしかた

1 オプションメニューを表示させる(23ページ参照)

2 ▲または▼ボタンを押してパスワードロックを選択する

画角	◀	AUTO ▶
パスワードロック	◀	映像表示 ▶
メニュー位置	◀	1. ▶

3 ◀または▶ボタンを押してモード(映像表示またはキー操作)を切り換える

- すでにパスワードが設定されているときは、モードは切り換わりません。そのときは、ENTERボタンを押して、パスワードロック機能を解除してから設定し直してください。

4 ENTERボタンを押す

- パスワードロック画面(設定用)が表示されます。

キー操作	
設定	OK
解除	OK

- すでにパスワードが設定されているときは、解除メニューが選択されます。そのときはパスワードロック機能を解除してから設定し直してください。

5 ENTERボタンを押す

- パスワード入力画面が表示されます。

6 ▲または▼ボタンを押して0〜9を選択する

7 ▶ボタンを押す

- 次の桁の設定ができるようになります

8 操作6、7を繰り返してパスワード(4桁)を設定する

9 同様に再入力欄にパスワードと同じ数字を設定する

10 ▶ボタンを押してOKを選択してからENTERボタンを押す

- 再入力欄の数字とパスワードが一致しない場合はエラーメッセージが表示されます。
- パスワード設定を取り消したいときは、▶ボタンを押して中止を選択してからENTERボタンを押します。またはMENUボタンを押してパスワード入力画面を閉じます。

パスワードロックの解除のしかた

1 オプションメニューを表示させる(23ページ参照)

2 ▲または▼ボタンを押してパスワードロックを選択する

3 ENTERボタンを押す

キー操作	
設定	OK
解除	OK

- パスワードロック画面(解除用)が表示されます。

4 ENTERボタンを押す

- パスワード入力画面が表示されます。

5 ▲または▼ボタンを押して0〜9を選択する

6 ▶ボタンを押す

- 次の桁の設定ができるようになります。

7 操作5、6を繰り返してパスワード(4桁)を設定する

8 ▶ボタンを押してOKを選択してからENTERボタンを押す

- 誤ったパスワードを入力した場合はエラーメッセージが表示されます。
- パスワード解除を取り消したいときは、▶ボタンを押して中止を選択してからENTERボタンを押します。またはMENUボタンを押してパスワード入力画面を閉じます。

パスワードを忘れたときは

本体操作パネルのMENUボタン、およびENTERボタンを同時に押して、パスワードを解除してください。

コンピュータによる監視と制御

本機はコンピュータによるプロジェクターの監視および制御をLAN回線経由で行うことができます。

- 監視および制御には、付属品のCD-ROM内のソフト「三菱プロジェクターコントロールデバイスインストーラー*(対応OS: Windows® 2000, Windows® XP)」をインストールする必要があります。くわしくはCD-ROM内の「LAN制御UTILITY操作説明書」をご覧ください。

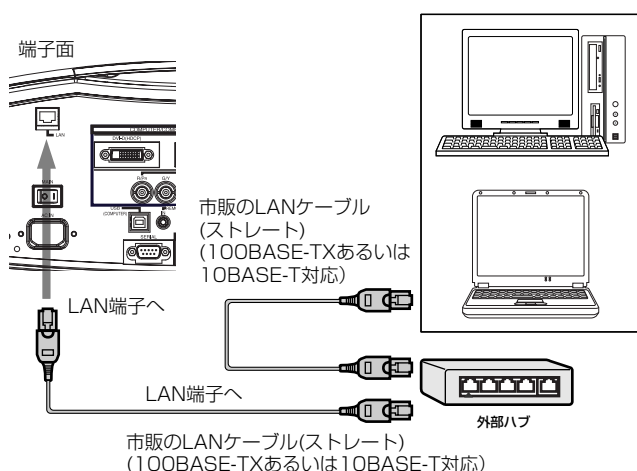
  *) デバイスコントローラーの機能
  - プロジェクターのIPアドレス設定
  - パスワード/表示言語設定/LAN制御設定
  - PJLink®認証設定(Telnet機能)
  - Webブラウザによる状態制御/監視ツール ProjectorViewの起動

主な機能

- ProjectorView
  Webブラウザによりプロジェクターの監視と制御を行う
- PJLink®
  プロジェクター制御用の標準プロトコルで、異なるメーカー間、機種間であっても同一のアプリケーションを用いてプロジェクターの監視・制御を行う

PJLink®について

- PJLink®機能を使用するには、別途、PJLink®アプリケーションソフトが必要です。
- PJLinkの仕様に関しては、社団法人　ビジネス機械・情報システム産業協会 (JBMIA)のWebサイトを参照してください。
  URL　　http://pjlink.jbmia.or.jp/
- 本プロジェクターは、JBMIA PJLinkクラス1の規格に適合しています。PJLinkクラス1で定義されているすべてのコマンドに対応しており、PJLink標準仕様バージョン1.0で適合を確認しています。

接続

- LANケーブルは、ストレート結線でカテゴリー5対応のものを使用してください。
- 静電気を帯びた手でLAN端子にふれると静電気の放電により、故障の原因となることがあります。LAN端子およびLANケーブルの金属部分には触れないようにしてください。

付属のCD-ROMについて

付属のCD-ROMには、アプリケーションソフト「三菱プロジェクターコントロールデバイスインストーラー」、「LAN制御UTILITY操作説明書」およびAcrobat® Reader™が収録されています。

LAN制御UTILITY操作説明書をご覧になるには

以下の手順に従ってご覧ください。

1 付属のCD-ROMをCD-ROMドライブに入れる
2. CD-ROM"XD2000"を開く
3. "Manual.pdf"のアイコンをダブルクリックする

- LAN制御UTILITY操作説明書をご覧になるためには、コンピュータにAcrobat® Reader™がインストールされている必要があります。インストールされていない場合は、以下の手順に従ってインストールしてください。

Acrobat® Reader™のインストールについて

1 付属のCD-ROMをCD-ROMドライブに入れる
2. CD-ROM"XD2000"を開く
3. "ACROBAT_READER"フォルダーを開く
4. インストール用ソフトのアイコンをダブルクリックする
5. 画面の指示に従ってインストールする

光源ランプを交換する

本機には、DMDの映像を投写するために光源ランプが内蔵されています。

本光源ランプは消耗部品であり、使用中に切れたり、輝度が低下する場合があります。このような場合、早めに新しい光源ランプと交換してください。

光源ランプは、必ず別売のLVP-XD2000/LVP-XD1000専用の光源ランプをご使用ください。光源ランプのご購入は、お買い上げの販売店または三菱電機テクニカルサポートセンターにご依頼ください。

LVP-XD2000/LVP-XD1000 用光源ランプ形名：VLT-XD2000LP

⚠警告

- 光源ランプを交換する前に、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。電源プラグをコンセントから抜かずに交換を行うと感電の原因となることがあります。
- 光源ランプの固定ネジを本機内部に落とさないようにしてください。また、本機内部に金属片や燃えやすいものなどを入れないでください。内部に異物が入ったまま使うと感電や火災の原因となります。入ったものがとれないときは、異物の回収を三菱電機テクニカルサポートセンターにご依頼ください。
- 光源ランプは確実に取付けてください。取付けが不十分な場合、光源ランプは点灯しません。また、火災の原因にもなります。
- 取出した光源ランプは決して振ったり顔の上に持っていかないでください。ガラス片が飛び散ったり落下して目に入る等のけがのおそれがあります。
- 使用した直後、ランプカバーは高温になっていますので光源ランプの交換はしないでください。やけどなどの原因となります。電源ボタンで電源を切り、光源ランプ消灯後、冷却のための吸・排気ファンが止まるまで約2分間お待ちください。そして主電源を切り電源プラグをコンセントから抜き1時間以上たって充分に冷えてから交換をはじめてください。
- 高圧水銀ランプが破裂した場合、本体内部にガラス片が散乱している可能性があります。清掃やランプ交換をお客様ご自身でなされる場合、必ず本体をうらがえしにし、光源ランプの取っ手を持っておこなってください。ガラス片でけがの恐れがあります。三菱電機テクニカルサポートセンターに光源ランプの交換と内部の点検を依頼することをお勧めします。

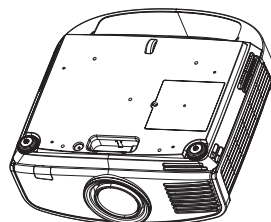
⚠注意

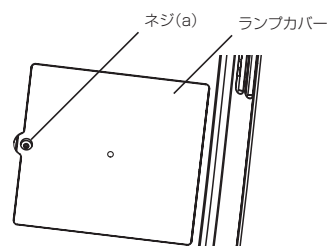
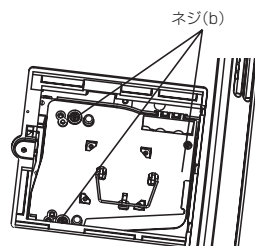
本機は光源ランプの使用時間が3750時間※1を越えるとSTATUSインジケーターが点滅し、パワーオンするたびに画面上に1分間メッセージが表示されます。4750時間※1を越えると以後25時間※1おきに画面上に1分間ランプ交換メッセージ(LAMP EXCHANGE)が表示されます。また、光源ランプの使用時間が5000時間※1※2を越えると自動的に電源が切れ、光源ランプを交換するまで使用することができなくなります。

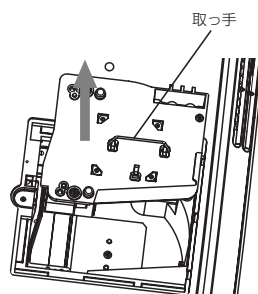
- 光源ランプは、交換以外の目的では取り出さないでください。故障の原因となることがあります。
- 本機の光源ランプには、内部圧力の高い水銀ランプが使われています。高圧水銀ランプは、衝撃やキズ、使用時間の経過による劣化などで、大きな音をともなって破裂したり、不点灯状態となって寿命が尽きたりする特性があります。また、高圧水銀ランプは個体差や使用条件によって破裂や不点灯に至るまでの時間はそれぞれの高圧水銀ランプで大きな差があります。従いまして、使用開始後まもない場合でも破裂することがあります。
- 交換時期を越えてお使いになると破裂する可能性が一段と高くなります。ランプ交換の指示が出た場合、光源ランプが正常に点灯している状態でもすみやかに新しい光源ランプと交換してください。
- 高圧水銀ランプ破裂のとき、ランプBOX部内、外にガラスの破片が飛び散ったり、光源ランプ内部のガスが本体の排気口から出たりすることがあります(白いガス)。高圧水銀ランプ内部のガスには水銀が含まれています。吸い込んだり、目に入ったり、口に入ったりしないようご注意ください。万一、吸い込んだり、目に入ったり、口に入った場合には、速やかに医師にご相談ください。
- 使用済みのランプは、自治体で定められた条例、もしくは規則に従って廃棄してください。

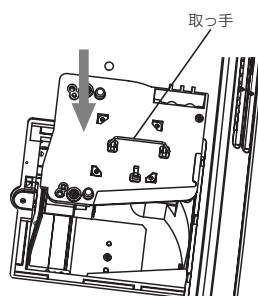
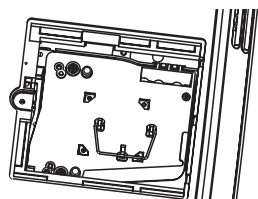
※1 ランプモードを「低」にした場合の時間(「標準」にした場合の時間は短くなります)。
※2 ランプモードを「低」にした場合の時間(「標準」にした場合の時間は2000時間)。

ランプ交換のしかた

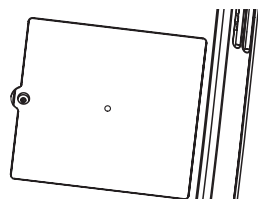
1 本体をうらがえす

- 製品が動かないように安定させてから作業してください。

2 ランプカバー止めネジ(a)をプラスドライバーで回してゆるめ、ランプカバーを本体から取外す

3 ランプBOXの固定ネジ3本(b)をプラスドライバーで回してゆるめる

4 取っ手を引きあげる

5 取っ手を持って、ランプを本体から抜き出す

- ランプBOXを本体から抜き出すときは、ゆっくりと行ってください。電球部が破裂している場合は急に抜き出しますとガラス片が飛び散るおそれがあります。
- 取り出した光源ランプに水などをかけたり、お子さまの手の届くところや、燃えやすい物の近くに置かないでください。やけどやけがの原因となります。

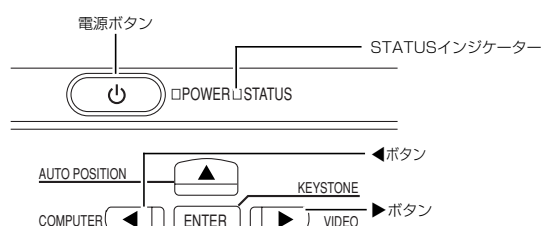
6 新しいランプの取っ手を持って、本体の穴の形状にランプ形状の方向を合わせて、ランプを奥にあたるまで差し込む

7 取っ手を収納部に押し込む

- 取っ手が確実にロックされていることを確認してください。

8 固定ネジ3本(b)をプラスドライバーで回してしっかりと締める

9 ランプカバーを本体に差し込み、ランプカバー止めネジ(a)をプラスドライバーで回してしっかりと締める

- ランプカバーがはずれているとPOWERインジケーターが赤と緑で点滅し、電源が入りません。

ランプ使用時間をリセットする

10 電源プラグをコンセントに接続し、主電源スイッチを入れる

11 本体操作パネルの◀、▶ボタン、および電源ボタン(⏻)を同時に押す

- 3つのボタンが同時に押されない場合、リセットされないことがあります。
- STATUSインジケーターが赤色に2回点滅し、リセットされたことをご確認ください。
- ランプ使用時間が5000時間※を越えていた場合、ランプを交換しても使用時間をリセットするまでは光源ランプを点灯させることはできません。
- ランプを交換をしていないときは使用時間をリセットしないでください。

※ ランプモードを「低」にした場合の時間(「標準」にした場合の時間は2000時間)。

故障かなと思ったら

修理を依頼される前に、次のことをお調べになって、それでも不具合があるときは使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、三菱電機テクニカルサポートセンターにご連絡ください。

映像が映らない

<table>
<tr><th>現象</th><th>確認/処置</th></tr>
<tr><td>電源が入らない</td><td>● インジケーターの光りかたを確認する。
<table>
<tr><th>POWER</th><th>STATUS</th><th>処置</th></tr>
<tr><td>消灯</td><td>消灯</td><td>● 電源コードを本機に接続する。
● 電源プラグをコンセントに接続する。
● 主電源スイッチを入れる。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">赤点灯</td><td>消灯</td><td>● 吸気口、排気口をふさいでいる物があれば取り除き、以下の操作を行ってください。
1. 主電源スイッチを切る。
2. 本体が冷めているのを確認する。
3. 主電源スイッチを入れる。
4. 電源ボタンを押す。</td></tr>
<tr><td>オレンジ点滅</td><td>● 吸気口、排気口をふさいでいる物があれば取り除く。
● 暖房の吹き出しが、排気口にかからないようにする。</td></tr>
<tr><td>緑点滅</td><td>● STATUSインジケーターの緑点滅が消えてから、電源ボタンを押す。
● ファンの動作中に主電源スイッチを切ると、次に主電源スイッチを入れたとき、約2分間点灯できなくなる場合があります。
● 光源ランプを消灯した後、約2分間は再点灯できません。
● 数回電源ボタンを押す。</td></tr>
<tr><td>赤点灯</td><td>● 光源ランプを交換する。(光源ランプの寿命に達しています。)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">赤/緑点滅</td><td>消灯</td><td>● 裏面のランプカバーを取り付ける。</td></tr>
<tr><td>点灯
または
点滅</td><td>● 電源プラグをコンセントから抜き、三菱電機テクニカルサポートセンターにご相談ください。</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>映像が映らない</td><td>● MUTEボタンを押してAVミュートの設定をはずす。
● ランプ点灯に1分程度かかる場合があります。
● まれにランプ点灯に失敗することがあります。数分たってから再度点灯させてください。
● 主電源スイッチを入れたとき、ファンが回転し電源ボタンが動作しないときがあります。これは前回の使用時に冷却が不完全な状態で終了されたためです。ファンが停止してから電源ボタンを押して、再度点灯させてください。
● オプションメニューのSCART入力の設定を「OFF」にする(24ページ参照)。
● 吸気口が汚れていないか確認する。
● ランプカバーが閉まっているか確認する(31ページ参照)。
● 外部機器と接続しているケーブルが断線していないか確認する。
● 延長ケーブルを使用している場合は、付属のケーブルと差し替えて正常に映像が表示されていることをご確認ください。正常に映像が表示される場合は、延長ケーブルとRGB信号増幅器を合わせてご使用ください。
● レンズキャップをはずす。</td></tr>
<tr><td>映像が突然消える</td><td>● 吸気口、排気口がふさがれているときになることがあります。
(このときSTATUSインジケーターはオレンジ点滅しています)
→吸気口、排気口をふさいでいる物を取り除いてから以下の操作を行う。
1. 吸·排気ファンが止まるまで待つ (STATUSインジケーターが消灯するまで待つ)。
2. 主電源スイッチを切る。
3. 約10分ほど待つ。
4. 主電源スイッチを入れる。
5. 電源ボタンを押す。
● STATUSインジケーターが赤点灯しているときは、ランプ交換の表示です。光源ランプを交換してください。</td></tr>
<tr><td>「入力信号がありません」が表示される</td><td>● 接続した機器の電源を入れる。または接続した機器が故障していないか確認する。
● 外部機器の信号が出力されているか確認する。(特にノートタイプのコンピュータの場合)
● 外部機器と接続しているケーブルが断線していないか確認する。
● 外部機器と接続している端子が正しい端子に接続されているか確認する。
● 接続した機器の入力が正しく選ばれているか確認する。
● RGB接続時に延長ケーブルを使用している場合は、付属のケーブルと差し替えて正常に映像が表示されていることをご確認ください。正常に映像が表示される場合は、延長ケーブルとRGB信号増幅器を合わせてご使用ください。</td></tr>
<tr><td>パスワード入力画面が表示される</td><td>● オプションメニューのパスワードロック機能で「映像表示」が設定されています。
→パスワードを入力する、またはプロジェクターの管理者に問い合わせてください。</td></tr>
</table>

映像がおかしい

現象	確認/処置
映像がゆれる 画面位置がおかしい	● 外部機器と接続しているケーブルが断線しかかっていないか確認する。 ● 外部機器と接続ケーブルのプラグを接続端子の奥までしっかりと接続する。 ● AUTO POSITIONボタンを押す。 ● コンピュータの種類によっては、まれに規格外の信号が出力される場合があるので信号設定メニューで調整する(27ページ参照)。
映像がひずむ	● 本機と投写面が直角になるように調整する(14ページ参照)。
映像が暗い	● 画質メニューのブライトの調整をする(26ページ参照)。 ● ランプを交換する(30ページ参照)。
映像がぼやける	● フォーカスを合わせる。(13、21ページ参照)　● レンズをきれいに拭く。 ● リモコンの◀、または▶ボタンを押してちらつきをなくす。 ● 画質メニューのブライトおよびコントラストの調整をする(26ページ参照)。 ● 本機と投写面が直角になるように調整する(14ページ参照)。
映像に光る点が見える 映像に黒い点が見える	● DLPプロジェクター特有の現象です。故障ではありません。 (一部、常時点灯または常時不点灯の画素が存在する場合がありますが、故障ではありません。99.99%以上は有効な画素数です。)
映像に細かい縞模様が見える	● スクリーンとの干渉によるもので、故障ではありません。スクリーンを交換するか本機のフォーカスを少しずらしてみてください。 ● ご使用になるDVDプレーヤー 、ゲーム機によっては画面の縦、横方向に薄いスジ状のノイズが現れる場合があります。この場合、LPFをONにすることによりプログレッシブフィルターがはたらき、これらのスジ状のノイズを軽減することができます。
映像(および音声)が乱れる	● 外部機器との接続ケーブルのプラグを接続端子の奥までしっかりと接続する。 ● 妨害電波を発信している機器から遠ざける。 ● 入力信号によっては、台形補正を行うと画像が正常に表示されない場合がありますが、故障ではありません。この場合は、台形補正量が少なくなるように再調整してご使用ください。
色合いがおかしい	● 信号設定メニューのCOMPUTER入力の設定が正しく設定されているか確認する(25ページ参照)。 ● 外部機器と接続しているケーブルが断線していないか確認する。
コンピュータの動画部分だけが表示できない	● コンピュータの問題です。コンピュータメーカーにお問い合わせください。
映像がにじむ	● コンピュータの出力解像度をプロジェクターの解像度に合わせる(38ページ参照)。 コンピュータの出力解像度の変更については、コンピュータメーカーにお問い合わせください。 ● 台形補正を使用すると、映像によっては画像や文字がにじんで見えることがあります。 このような場合、台形補正を使用せずにお使いください。

その他

現象	確認/処置
排気口から温風が出る	● 本機内部を冷却して出てくる温風です。熱く感じることがありますが故障ではありません。
外部音声出力が出ない	● 音量設定が小さくなっていないか確認する。
メニュー設定ができない	● ノイズなどの影響で、本機内部のマイコンが誤動作していることがあります。 →一度主電源スイッチを切り、10分以上たってからもう一度主電源スイッチを入れます。
画面上に「温度異常！！」が表示(点滅)がされる	● 周辺温度が高くなると表示されます。高温状態が続くと、光源ランプが消えます。 →周辺温度が高くなる原因を取り除く。 ● 吸気口、排気口をふさいでいると表示されることがあります。その状態を続けると光源ランプが消えます。 →吸気口、排気口をふさいでいるものを取り除く。
⃠マークが表示される	● 動作しない操作を行ったときに表示されます。故障ではありません。
リモコンが効かない・効きにくい	● 乾電池が消耗してないか確認する(2ページ参照)。 ● リモコン受光部に直射日光や蛍光灯などの光が直接当たっていないか確認する(10ページ参照)。 ● リモコンの操作範囲から外れてませんか(10ページ参照)。
本体操作パネルのボタン(電源ボタンを除く)がはたらかない。	● オプションメニューのパスワードロック機能で「キー操作」が設定されています。 →設定を解除する。
異音がする	● カラーホイールが高速回転しているため、まれに金属音がすることがありますが故障ではありません。

ランプ交換のあとで、以下の症状が出たときは、まず、次のことをお調べください。

現象	確認/処置
電源が入らない	● 裏面のランプカバーをきちんと取り付ける。 ● ランプ使用時間をリセットする(31ページ参照)。
STATUSインジケーターが点滅する	● ランプ使用時間をリセットする(31ページ参照)。

インジケーターの見かた

本機には、内部の状態を知らせるインジケーターが2つあります。インジケーターの光りかたで、どのような状態かを知ることができます。次のことをお調べになって、それでも不具合があるときは使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、三菱電機テクニカルサポートセンターにご連絡ください。

正常時

POWER	STATUS	状態	備考
赤点灯	消灯	電源スタンバイ状態	
	緑点滅	クーリング中	電源「入」の操作はできません。
緑点灯	緑点滅	ランプスタンバイ状態	電源「切」の操作はできません。
	緑点灯	電源「入」（通常時）	

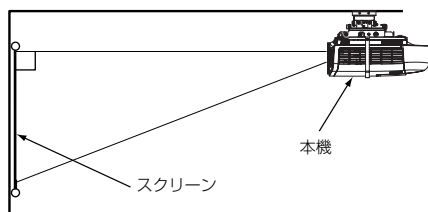
異常時

POWER	STATUS	状態	処置
緑点灯 または 赤点灯	オレンジ点滅	本機内部が高温になっている ・吸気口または排気口をふさいでいる。 ・暖房の吹出し口など高温になる場所で使用している。	・ふさいでいる物をとる。 ・設置場所を変える。
赤点灯	緑点滅	保護回路がはたらいている または ランプが異常	・STATUSインジケーターの緑点滅が消えてから電源ボタンを押す 上記の操作を数回行っても、光源ランプが点灯しないときは、光源ランプを交換してください。光源ランプのご購入は、お買い上げの販売店または三菱電機テクニカルサポートセンターへご依頼ください。
緑点灯	赤/緑点滅	ランプ交換表示(通算約3750時間※1使用・電源が「入」のとき)	光源ランプを交換してください。 光源ランプのご購入は、お買い上げの販売店または三菱電機テクニカルサポートセンターへご依頼ください。
赤点灯	赤点滅	ランプ交換表示(通算約3750時間※1使用・電源が「切」のとき)	
	赤点灯	ランプ交換表示(通算約5000時間※1※2使用)	
赤/緑点滅	消灯	ランプカバーが開いている	ランプカバーを閉じてください。
	点灯 または 点滅	故障	電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店または三菱電機テクニカルサポートセンターにご相談ください。

※1　ランプモードを「低」にした場合の時間（「標準」にした場合の時間は短くなります）。
※2　ランプモードを「低」にした場合の時間（「標準」にした場合の時間は約2000時間）。

設置工事を依頼するときは・お掃除のしかた

天吊りして正面から映像を見る場合

天吊りにする場合は別売の専用天吊り金具(37ページ参照)を使用してください。また、設置工事は必ず教育を受けた専門の工事業者に依頼してください。くわしくは三菱電機テクニカルサポートセンターにご相談ください。

- 当社製以外の天吊り金具ならびに天吊り金具設置環境の不具合による製品の損傷等については保証期間中であっても当社は責任を負いかねますのでご注意ください。
- 天吊りの場合、設置メニューの反転表示を「上下左右」にしてください。くわしくは24ページをご覧ください。
- ブレーカなどを設置するよう、工事業者に依頼してください。ご使用にならないときは、必ずブレーカなどで主電源をおとしてください。
- 天吊りの場合、床置き時に比べて画面の明るさが暗くなることがありますが、故障ではありません。
- 排気口にエアコンなどの風が直接当たるような場所に設置しないでください。故障の原因になることがあります。
- 本体の排気口から温風が出ますので、火災報知器の近くに設置しないでください。

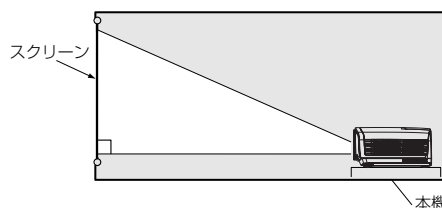
寸法図

ターミナルカバー装着時

単位はmm

* レンズ位置センターは出荷時の値です。

半透過性のスクリーンに投写し、裏側から映像を見る場合

設置工事は必ず教育を受けた専門の工事業者に依頼してください。くわしくは三菱電機テクニカルサポートセンターにご相談ください。

- 裏側から映像を見る場合、設置メニューの反転表示を「左右」にしてください。くわしくは24ページをご覧ください。

お掃除のしかた

お手入れをする前には必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

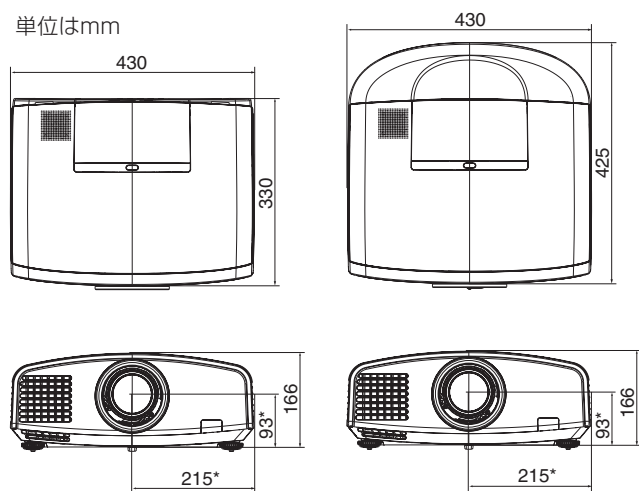
本体をきれいにする

柔らかい布で軽く汚れをふき取る

- 汚れがひどいときは水にうすめた中性洗剤に浸した布をよくしぼってから拭いて、乾いた布で仕上げてください。
- 殺虫剤をかけたり、ベンジンやシンナーなどで拭いたり、ゴムやビニール製品を長時間接触させると、変質したり、塗料がはげる原因となります。

レンズをきれいにする

市販のレンズ手入れ用品(ブローワーブラシなど)でほこりや汚れを取る

- レンズの表面は傷つきやすいので、かたいものでこすったり、たたいたりしないでください。

こんな機能もあります

盗難防止用ロックについて

盗難防止用ロックは、Kensington社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。日本国内総販売代理店の連絡先は、以下の通りです。
日本ポラデジタル株式会社
104-0032　東京都中央区八丁堀1丁目5番2号　はごろもビル
TEL：03-3537-1070
FAX：03-3537-1071

索引

端子について

SERIAL端子(D-Sub 9ピン)

PIN No.	名　称	I/O
1	−	−
2	TXD	入力
3	RXD	出力
4	−	−
5	GND	−
6	−	−
7	−	−
8	−	−
9	−	−

COMPUTER/COMPONENT VIDEO IN-1端子(ミニD-Sub 15ピン)

PIN No.	仕　様	PIN No.	仕　様
1	R(RED)/PR/CR	9	DDC 5V
2	G(GREEN)/Y	10	GND
3	B(BLUE)/PB/CB	11	GND
4	GND	12	DDC Data
5	GND	13	HD/CS
6	GND	14	VD
7	GND	15	DDC Clock
8	GND		

MONITOR OUT端子(ミニD-Sub 15ピン)

PIN No.	仕　様	PIN No.	仕　様
1	R(RED)/PR/CR	9	−
2	G(GREEN)/Y	10	GND
3	B(BLUE)/PB/CB	11	−
4	−	12	−
5	GND	13	HD/CS
6	GND	14	VD
7	GND	15	−
8	GND		

COMPUTER/COMPONENT VIDEO DVI-D(HDCP)端子

PIN No.	仕　様	PIN No.	仕　様	PIN No.	仕　様
1	DATA 2−	9	DATA 1−	17	DATA 0−
2	DATA 2+	10	DATA 1+	18	DATA 0+
3	DATA 2 Shield	11	DATA 1 Shield	19	DATA 0 Shield
4	−	12	−	20	−
5	−	13	−	21	−
6	DDC Clock	14	+5V Power	22	Clock Shield
7	DDC Data	15	GND	23	Clock+
8	−	16	Hot Plug Detect	24	Clock−

仕様（仕様および外観は改良のため予告無く変更することがあります。予めご了承ください。）

形式			LVP-XD2000/LVP-XD1000
表示方式			DLP™(単板DMD)
光学方式			時分割色分離・合成方式
表示素子	サイズ		0.7形DMD×1(枚)、アスペクト比4:3
	画素数		786,432画素(1024×768)×1枚
投写レンズ	焦点距離		f=24.5～33.1mm
	F値		F2.0～F2.4
光源			高圧水銀ランプ　300W
画面サイズ(投写距離)			最小40形～最大300形(投写距離1.4～10.6m)
音声出力			3W、モノラル
スピーカ			口径φ 5cm、個数 1
表示可能解像度	コンピュータ信号入力時		最大入力解像度:1280×1024ドット(圧縮表示) パネル表示解像度:1024×768ドット
	ビデオ信号入力時		表示可能信号:NTSC、4.43NTSC、PAL、SECAM、PAL-N、PAL-M、PAL-60 NTSC水平解像度:600TV本(S端子入力時)
コンピュータ入出力	コンピュータ入力	映像入力	ミニD-Sub15ピン(RGBまたはY/PB/PRまたはY/CB/CR信号対応)、1系統 BNC 端子× 5(RGBまたはY/PB/PRまたはY/CB/CR信号対応)、 1 系統 ・RGB:0.7Vp-p 75Ω/1.0Vp-p 75Ω(同期負極性) ・Y:1.0Vp-p 75Ω(同期負極性) ・PBPR/CBCR:0.7Vp-p 75Ω ・HD/CS:TTLレベル(負または正極性) ・VD:TTLレベル(負または正極性)
			DVI-D、1 系統
		音声入力	φ 3.5mm ステレオミニジャック、2 系統 ・350mVrms 10kΩ以上
	コンピュータ出力	映像出力	ミニD-Sub15ピン(RGB/YPBPR/YCBCR出力)、1系統 ・コンピュータ入力と同一の信号形式で出力
		音声出力	φ 3.5mm ステレオミニジャック、1 系統（ビデオ出力と共有）
ビデオ入出力	ビデオ入力	映像入力	RCA 端子 /BNC 端子、1 系統 ・1.0Vp-p 75Ω(同期負極性) S 端子 /BNC 端子、1 系統 ・Y：1.0Vp-p 75Ω(同期負極性) ・C：0.286Vp-p 75Ω(バースト信号)
		音声入力	RCA 端子× 2(L、R)、2 系統 ・350mVrms 10kΩ以上
	ビデオ出力	音声出力	φ 3.5mm ステレオミニジャック、1 系統（コンピュータ出力と共有）
制御入出力 / その他			REMOTE IN: 1 系統、 REMOTE OUT: 1 系統、 シリアル端子(D-Sub 9ピン、RS-232C準拠):1系統、 USB端子(Bタイプ)コンピュータ制御用:1系統 LAN端子(RJ-45):1系統 ＤＣ出力端子:5Ｖ　最大1.5A　無線LANユニット用*:1系統
使用温度(使用湿度)			使用温度範囲：5～40℃(使用湿度範囲：30～90%)
電源			AC100V、50/60Hz
消費電力			4.2A　420W
外形寸法			W(幅)430mm × H(高さ)166mm × D(奥行き)330mm(本体のみ) ※本体突起部含まず W(幅)430mm × H(高さ)166mm × D(奥行き)425mm(ターミナルカバー装着時) ※本体突起部含まず
質量			約 8.5kg (本体のみ)、約 8.8kg (ターミナルカバー装着時)

*:無線LANユニットは付属されていません。

「JIS C 61000-3-2適合品」

：JIS C 61000-3-2適合品とは、日本工業規格「電磁両立性－第3-2部：限度値－高調波電流発生限度値（1相当たりの入力電流が20A以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

別売品

スクリーン	（形名 SCR-A50P）	光源ランプ	（形名 VLT-XD2000LP）
	（形名 SCR-A60P）	天吊り金具	（形名 BR-XD2000）
	（形名 SCR-A80P）	高天井用ポール	（形名 BR-XD400P）

仕様(つづき)

接続できる信号の種類

信号表示	解像度 (H x V)	水平周波数 (kHz)	垂直周波数 (Hz)	通常表示 (H x V)	リアル表示 (水平 x 垂直)	
TV60,480i(525i)	–	15.73	59.94	1024 x 768	–	*1*3
TV50,576i(625i)	–	15.63	50.00	1024 x 768	–	*1*3
1080i 60(1125i 60)	–	33.75	60.00	1024 x 576	–	*1*2
1080i 50(1125i 50)	–	28.13	50.00	1024 x 576	–	*1
1080i 50a(1250i 50)	–	31.25	50.00	1024 x 576	–	*1
480p(525p)	–	31.47	59.94	1024 x 768	–	*1*2
576p(625p)	–	31.25	50.00	1024 x 768	–	*1*2
720p 60 (750p 60)	–	45.00	60.00	1024 x 576	–	*1*2
720p 50 (750p 50)	–	37.50	50.00	1024 x 576	–	*1
PC98	640 x 400	24.82	56.42	1024 x 640	640 x 400	*1
CGA70	640 x 400	31.47	70.09	1024 x 640	640 x 400	
CGA84	640 x 400	37.86	84.13	1024 x 640	640 x 400	
CGA85	640 x 400	37.86	85.08	1024 x 640	640 x 400	
VGA60	640 x 480	31.47	59.94	1024 x 768	640 x 480	*2
VGA72	640 x 480	37.86	72.81	1024 x 768	640 x 480	
VGA75	640 x 480	37.50	75.00	1024 x 768	640 x 480	
VGA85	640 x 480	43.27	85.01	1024 x 768	640 x 480	
SVGA56	800 x 600	35.16	56.25	1024 x 768	800 x 600	
SVGA60	800 x 600	37.88	60.32	1024 x 768	800 x 600	*2
SVGA72	800 x 600	48.08	72.19	1024 x 768	800 x 600	
SVGA75	800 x 600	46.88	75.00	1024 x 768	800 x 600	
SVGA85	800 x 600	53.67	85.06	1024 x 768	800 x 600	
SVGA95	800 x 600	59.97	94.89	1024 x 768	800 x 600	*1
XGA43i	1024 x 768	35.52	86.96	1024 x 768	1024 x 768	*1
XGA60	1024 x 768	48.36	60.00	1024 x 768	1024 x 768	*2
XGA70	1024 x 768	56.48	70.07	1024 x 768	1024 x 768	
XGA75	1024 x 768	60.02	75.03	1024 x 768	1024 x 768	
XGA85	1024 x 768	68.68	85.00	1024 x 768	1024 x 768	
SXGA70a	1152 x 864	63.85	70.01	1024 x 768	1024 x 768	
SXGA75a	1152 x 864	67.50	75.00	1024 x 768	1024 x 768	
SXGA85a	1152 x 864	77.49	85.06	1024 x 768	1024 x 768	
SXGA60b	1280 x 960	60.00	60.00	1024 x 768	1024 x 768	
SXGA75b	1280 x 960	75.00	75.00	1024 x 768	1024 x 768	
SXGA43i	1280 x 1024	46.43	86.87	960 x 768	1024 x 768	*1
SXGA60	1280 x 1024	63.98	60.02	960 x 768	1024 x 768	*2*4
SXGA75	1280 x 1024	79.98	75.02	960 x 768	1024 x 768	*4
MAC13	640 x 480	35.00	66.67	1024 x 768	640 x 480	
MAC16	832 x 624	49.72	74.55	1024 x 768	832 x 624	
MAC19	1024 x 768	60.24	75.02	1024 x 768	1024 x 768	
HP75	1024 x 768	62.94	74.92	1024 x 768	1024 x 768	
HP72	1280 x 1024	78.13	72.00	960 x 768	1024 x 768	*4
SUN66a	1152 x 900	61.85	66.00	984 x 768	1024 x 768	
SUN76a	1152 x 900	71.81	76.64	984 x 768	1024 x 768	
SUN66	1280 x 1024	71.68	66.68	960 x 768	1024 x 768	*4
SUN76	1280 x 1024	81.13	76.11	960 x 768	1024 x 768	*4
SGI72	1280 x 1024	76.92	72.30	960 x 768	1024 x 768	*4
SGI76	1280 x 1024	82.01	76.00	960 x 768	1024 x 768	*4

*1: 拡大表示、PinPには対応していません。　*2:DVI端子対応
*3: YC_BC_Rの信号入力時のみ対応しています。　*4:信号によっては、拡大表示できない場合があります。

- 本機の最大解像度は1024×768ドットです。これ以上の解像度の場合は、本来の解像度は得られません。
- SYNC ON G対応の信号は、映像が緑っぽくなることがあります(このとき、詳細設定メニューのクランプ位置またはクランプ幅を調整してください)。
- SYNC ON G対応の信号は、画面が少し揺れることがあります。
- 表にのっていない解像度と周波数のときは、接続するコンピュータの解像度を変更することにより、対応できる解像度と周波数に変更できる場合があります。
- 1080iはハイビジョン信号を表します。
- ハイビジョン信号などをRGB信号で入力している場合、正常に色がでないときは信号設定メニューのCOMPUTER入力の設定をRGBにしてください。
- ハイビジョン信号を表示しているとき、インターレス信号の構造上、画質が劣化します。
- 480i、576i、480p、の5線(R、G、B、H、V)出力機器について本機は対応していません。

リアル表示について

投写画面上にモアレが発生したり、または投写画面上の線の太さがばらつくときは、入力信号そのままの大きさで表示(リアル表示)することにより、見やすくなることがあります。リアル表示にするためには、あらかじめ、オプションメニューの画角の設定を「REAL」にします(メニュー設定のしかたについては、23ページ参照)。

- リアル表示中は、拡大率の変更および拡大させる範囲の変更はできません。
- パネル解像度より大きい信号はREALモードであってもパネルサイズで縮小して表示されます。

保証とアフターサービス

■保証書（別添付）

● 保証書は、必ず「お買上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りください。
内容をよくお読みのあと、大切に保管してください。

保証期間
お買上げ日から１年間です
但し、光源ランプは１年以内で500時間まで

● **ランプ使用時間の確認方法**
スタンバイ状態で、▲、▼ ボタンを押しながら、電源ボタン（⏻）を押したとき、STATUS インジケーターが約５秒間、緑色に点灯すれば、ランプ使用時間は500時間以内です(ランプ使用中は点灯しません)。

■補修用性能部品の最低保有期間

● 当社は、DLP™プロジェクターの補修用性能部品を、製造打切り後最低8年間保有しています。
● 性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
● DMD、カラーホイールなどの光学部品、および冷却ファンは寿命部品です。長時間業務用途に使う場合は修理・交換が必要になります。このような場合は三菱電機テクニカルサポートセンターにご相談ください。

■ご不明な点や修理に関するご相談は

● 三菱電機テクニカルサポートセンターにご相談ください。

■修理を依頼されるときは

◎「**故障かな?と思ったときは**」の手順にしたがって、お調べください。
● なお、不具合があるときは、主電源を切ったあと、必ず電源プラグを抜いてから、三菱電機テクニカルサポートセンターにご連絡ください。

◎ **保証期間中は**
修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書の規定にしたがって、三菱電機テクニカルサポートセンターが修理させていただきます。

◎ **保証期間が過ぎているときは**
修理すれば使用できる場合には、ご希望により修理させていただきます。

◎ **修理料金は**
技術料+部品代(+出張料)などで構成されています。

◎ **ご連絡いただきたい内容**

1. 品　　名　三菱DLP™プロジェクター
2. 形　　名　LVP-XD2000/LVP-XD1000
3. お買上げ日　　年　月　日
4. 故障の状況　(できるだけ具体的に)
5. ご　住　所　(付近の目印なども)
6. お名前・電話番号・訪問希望日

お問合わせ窓口におけるお客さまの個人情報のお取り扱いについて

三菱電機株式会社は、お客さまからご提供いただきました個人情報を、下記のようにお取り扱いします。

1. お問合わせ(ご依頼)いただいた修理･保守･工事､および製品のお取り扱いに関連してお客さまよりご提供いただいた個人情報は、本目的ならびに製品品質やサービス品質の改善･製品情報のお知らせに利用します。
2. 上記利用目的のために、お問合わせ(ご依頼)内容の記録を残すことがあります。
3. あらかじめお客さまからご了解をいただいている場合および下記の場合を除き、当社以外の第三者に個人情報を提供･開示することはありません。
   ① 上記利用目的のために、当社グループ会社･協力会社などに業務委託する場合。
   ② 法令等の定める規定に基づく場合。
4. 個人情報に関するご相談は、お問合わせをいただきました窓口にご連絡ください。

三菱電機
テクニカルサポートセンターのご案内

テクニカルサポートセンター

修理、取り扱いのご相談、技術的なお問合わせは

全国どこからでもおかけいただける
三菱電機テクニカルサポートセンター
0120-32-7440（無料）
Tel:075-353-0654
(携帯電話、PHSでお問い合わせの場合)

■受付時間　平日・土日・祝日（弊社指定休日除く）
午前９：00～12：00/午後１：00～9：00

FAX　075-353-0685

E-mail　pep-m@fuso.co.jp

この製品に関する**詳細情報**や**応用例**などを、WWWサーバでもご提供しています。
www.MitsubishiElectric.co.jp/projector/business

ご相談窓口

当社家電品の購入・取扱い方法・その他ご不明な点は
三菱電機お客さま相談センター
受付時間 365日 24時間
〒154-0001 東京都世田谷区池尻 3-10-3

■ 全国どこからでもおかけいただけるフリーコール
0120-139-365（無料）
いつも サンキュー　３６５日

■ 通常電話番号（携帯電話対応）　03-3414-9655
■ FAX番号　03-3413-4049

■ ご相談対応　平　　日　9：00～19：00
土･日･祝　9：00～17：00
上記以外の時間は受付のみ可能です。

●所在地、電話番号などについては変更になることがありますので、あらかじめご了承願います。

● ご購入店などをメモしておきますとあとで役にたちます。

購入年月日

購入店名（住所）

電話番号

このDLP™プロジェクターの形名はLVP-XD2000、LVP-XD1000です。

愛情点検

● 長年ご使用の場合は点検をぜひ！

熱、湿気、ホコリなどの影響や、使用の度合いにより部品が劣化し、故障したり、時には安全性を損なって事故につながることもあります。

このような症状はありませんか

- 電源コード、電源プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
- 電源スイッチを入れても映像がでない。
- 映像が乱れたり、画面が異常にかけたりする。
- その他の異常・故障がある。

ご使用中止

故障や事故防止のため、コンセントから電源プラグをはずして、必ず販売店にご相談ください。

DLP™プロジェクターの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。

PRINTED IN JAPAN

京都製作所　〒617−8550 京都府長岡京市馬場図所1番地

871D467A1